

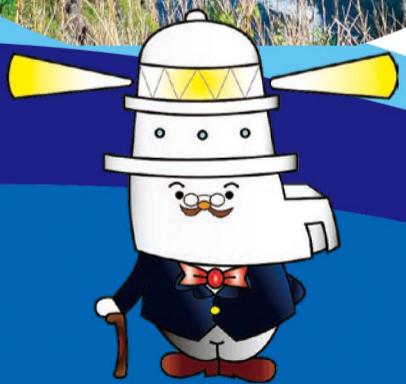


# 南伊豆町



## 総合防災マップ

保存版



まちを守る。家族を守る。  
光と水と緑に輝く南伊豆町

# ご挨拶



南伊豆町長  
岡部 克仁

町民の皆さまには、日頃より町政運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月11日の「東日本大震災」は、東北地方に甚大な被害をもたらし、多くの貴重な教訓をもたらしました。静岡県では、今後も南海トラフ巨大地震などの大規模災害がいつ発生してもおかしくない状況にあると言われております。

このような災害が、いつ起きても対処できるように私たちは、日ごろからしっかりとした防災意識をもち、対策を講じておく必要があります。

南伊豆町でも、皆様の安全を守るために災害に強いまちづくりを進めているところですが、安全なまちづくりには、行政機関の対策だけでは十分ではありません。

自助、共助のスローガンのもと一人ひとりが、防災の重要性を認識し、積極的に防災活動に参加していただくことが不可欠です。

この防災ガイドブックは、津波、土砂災害、洪水などの様々な災害に対し、事前に備えることで、日ごろの心構えや予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるよう、イラストなどでわかりやすく説明してあります。

ご家庭の目につくところに常備され、災害に備えるための資料として参考にさせていただければ幸いです。

## 目次

町内で発生した大きな災害	2
避難情報の種類	2
南伊豆町メール配信サービス	2
南海トラフを震源とする地震について	3
地震対策について	3
応急手当	4
南伊豆町津波避難計画	5
津波避難心得	5
津波・高潮・波浪警報・注意報	6
津波浸水想定図(南伊豆町全域図)	7・8
風水害対策について	9
大雨による災害の種類	10
洪水ハザード情報について	11
自主防災組織	12
ハザードマップ(詳細図)	13~36
東京電力パワーグリッドからのお願い	37
避難時の心得	38
非常時持ち出し品リスト	38
わが家の「防災・緊急情報」メモ	39

# 町内で発生した大きな災害

## 過去の災害【伊豆半島沖地震】

1974年(昭和49年)5月9日午前8時33分ごろ、伊豆半島南部の南伊豆町を中心に局所的に被害を伴った地震が発生した。石廊崎沖を震源とし、震源の深さは10キロメートル、地震の規模を示すマグニチュードは6.9であった。

被害は伊豆半島南部地域に集中し、死者30名、負傷者102名、家屋の全壊134棟、半壊240棟などのほか、山がけ崩れ等も発生した。

南伊豆町中木では、地震動により裏山が崩壊し、27名が土砂の下敷きとなって死亡したほか、負傷者8名、家屋の全壊30棟、全焼5棟、半壊3棟、一部破損19棟と壊滅的な被害を受けた。また、入間、石廊崎、その他の地区でも塀の倒壊による死者3名等の被害を受け、南伊豆町過去最大の被害を受けた。

## 避難情報の種類

区分	発令時の状況	住民に求める行動
避難準備・高齢者等 避難開始	●災害発生の可能性が高まった状況	●避難準備を開始 災害時要配慮者は避難を開始 ●避難支援者は要配慮者の避難支援を開始
避難勧告	●災害発生の可能性が明らかに高まった状況	●避難所や避難場所への避難を開始
避難指示 (緊急)	●災害発生危険性が非常に高いと判断される状況 ●災害が発生した状況	●避難行動をただちに完了 ●安全に避難できない場合は命を守る最低限の行動をとる

## 南伊豆町メール配信サービス



南伊豆町では、町民の皆様に向けての防災情報等の生活安全に関するメールの配信を行っております。

配信希望の方は、左記のQRコードからサイトにアクセスして登録するか、直接 [t-minamiizu@sg-m.jp](mailto:t-minamiizu@sg-m.jp) に空メールを送信してください。

# 南海トラフを震源とする地震について

## 「東海地域では巨大地震がいつ起きても不思議ではない」

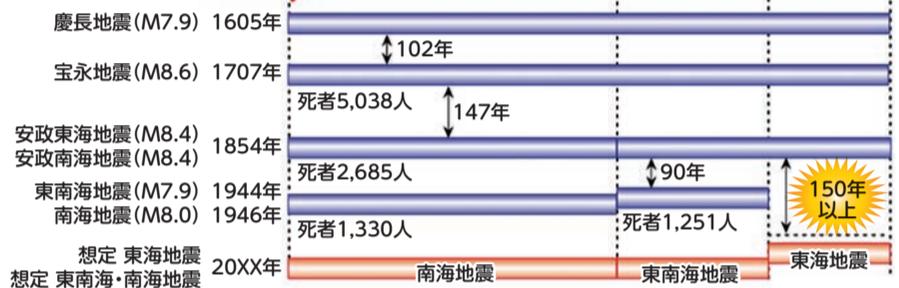
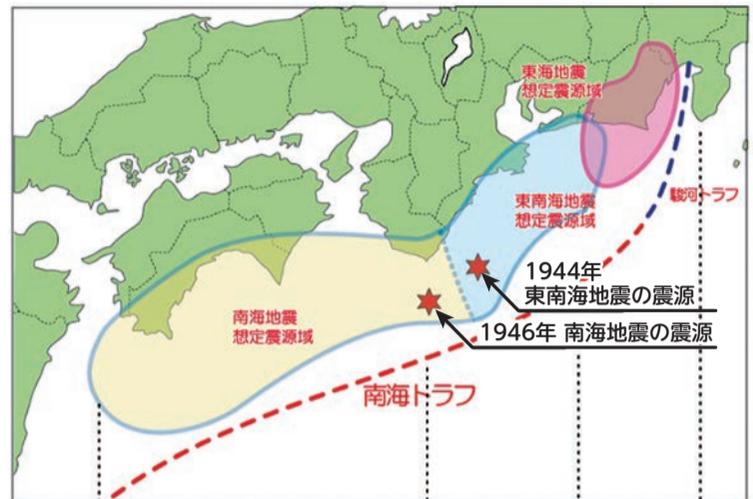
「東海・東南海・南海」3連動「南海トラフ巨大地震」の可能性

### 東海地震とは

東海地震は、駿河湾から静岡県の内陸部を震源域とするマグニチュード8クラスの巨大地震で、その発生の切迫性が指摘されています。

その根拠として、過去にこの地域で発生した大地震の歴史が挙げられます。駿河湾内にある駿河トラフから四国沖にある南海トラフにかけてのプレート境界では、過去100年から150年おきに岩盤がずれてマグニチュード8クラスの巨大地震が繰り返し起きていたことがわかっています。しかし、前回の地震（東南海地震[1944年、マグニチュード7.9]、南海地震[1946年、マグニチュード8.0]）の際には南海トラフ沿いの岩盤だけがずれて、駿河トラフ沿いの岩盤だけがずれずに残ってしまいました。そのため、駿河トラフ周辺の部分の岩盤は150年以上もずれていないことになり、「東海地震はいつ起こってもおかしくない」と言われているのです。

今後、東海地震が相当期間発生しなかった場合、東海地震と東南海、南海地震が連動して発生する南海トラフ巨大地震の可能性も懸念されます。西日本を中心に、巨大な津波や強い揺れにより極めて甚大な被害が生じる、国難とも言える巨大災害になるものと想定されます。



## 地震対策について 地震発生!そんなときどうする

### 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

#### 地震に備えて事前準備をしよう!

- 家具の固定・非常持ち出し品の準備  
迅速な避難のため家具の固定や非常持ち出し品の用意をしましょう。

#### とにかく自分の身を守ろう!

- 地震だ!まず身の安全  
大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

#### しっかり火の始末で、火災防止!

- 大揺れがおさまった  
台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。

#### わが家の安全の確認、確保!

- 火の始末のあと  
家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

#### 隣近所の安否確認、助け合い!

- 外に出たあと  
家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

#### 2、3日は自分でしのぐ!

- 避難後、数日間  
地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。



# 応急手当

心臓が止まってしまうような重大な事故は、いつ、どこで、何が原因でおこるか分かりません。心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下しますが、救急隊を待つ間に居合わせた人が心肺蘇生などを行うと救命の可能性が2倍程度に保たれることがわかっています。日本では、119番通報があってから救急車が現場に駆けつけるまでに平均して8分ほどかかります。事故などにあった人が心肺停止になったとき、その人を助けるためには、そばに居合わせた人が応急手当を行うことが重要となります。

## 心肺蘇生法

事故などにより傷病者が心肺停止状態になった場合、現場に居合わせた人は救急車が来るまでに、速やかに心肺蘇生などを行う必要があります。

### 1 意識確認

■意識がなければ、助けを呼び、119番通報とAEDを要請する。



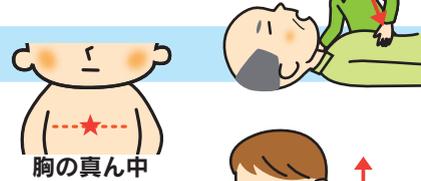
### 2 呼吸確認

■胸と腹部の動きを見ます。動いていなければ、心停止と判断します。



### 3 胸骨圧迫

■胸の真ん中に手を置く。  
■肘を伸ばし、胸が少なくとも5cmしずむように圧迫する。



### 4 人工呼吸 (※省略可能)

■気道を確認したまま患者の鼻をつまみ、患者の口をおおい、1秒かけて息を吹き込む。  
■2回行う。  
■自信がない、抵抗がある場合は省略してよい。



### 5 心肺蘇生法

■胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を、到着した救急隊と交代するまで繰り返す。  
■人工呼吸を省略した場合は胸骨圧迫のみ繰り返す。



## AEDの使い方

心肺蘇生法の実施者は心肺蘇生法を継続し、他の人がAEDを操作しましょう。AEDは音声がついているので音声にしたがって操作しましょう!!

### 1 電源ON

※ボックスを開けると自動で電源がONになる機種もある。



### 2 パット装着

■心臓を挟むようにパットを貼る。  
※パットに図が描いてあります。※下記使用上の注意参照



### 3 心電図解析

■AEDが心電図を解析する。  
■パットが装着されたら、自動で心電図を解析するので、周りの人に「離れて!」と指示を出す。  
■ショックが必要かどうか注意して聞く。



### 4 電気ショック

■ショックが必要なとき再度「離れて」と指示し、周囲の安全を確認後、ショックボタンを押す。  
■ショックが不要なとき⑤心肺蘇生法に進む。



### 5 心肺蘇生法再開



みんなで  
チェック

## AEDとは???

自動体外式除細動器のこと。  
ひとこと言えば、初めての人でもできる電気ショックの機器。



使用上の  
注意

- 体が濡れていたらタオルで水分を拭きとってから使用する。
- 胸部にペースメーカーや貼り薬がある場合はその部分を避けてパットを貼る。
- 小さな子供(乳児も含む)には小児用パットを使用しますが、ない場合は成人用を使用してよい。

# 南伊豆町津波避難計画

## 避難の考え方

●津波から命を守るためには、迅速かつ的確な避難が必要です。避難の際には以下に沿った避難を実施して下さい。

- ①津波浸水想定区域外へ避難する(周辺に高台・地域集合場所・一次避難地がある場合には、そこに避難)
- ②上記の避難が不可能なエリアは、町が既に指定している津波避難ビル(休暇村南伊豆・壺中の天宿○文)や津波避難タワーに避難する

●また南伊豆町では、以下の基準で避難を実施する必要があります。

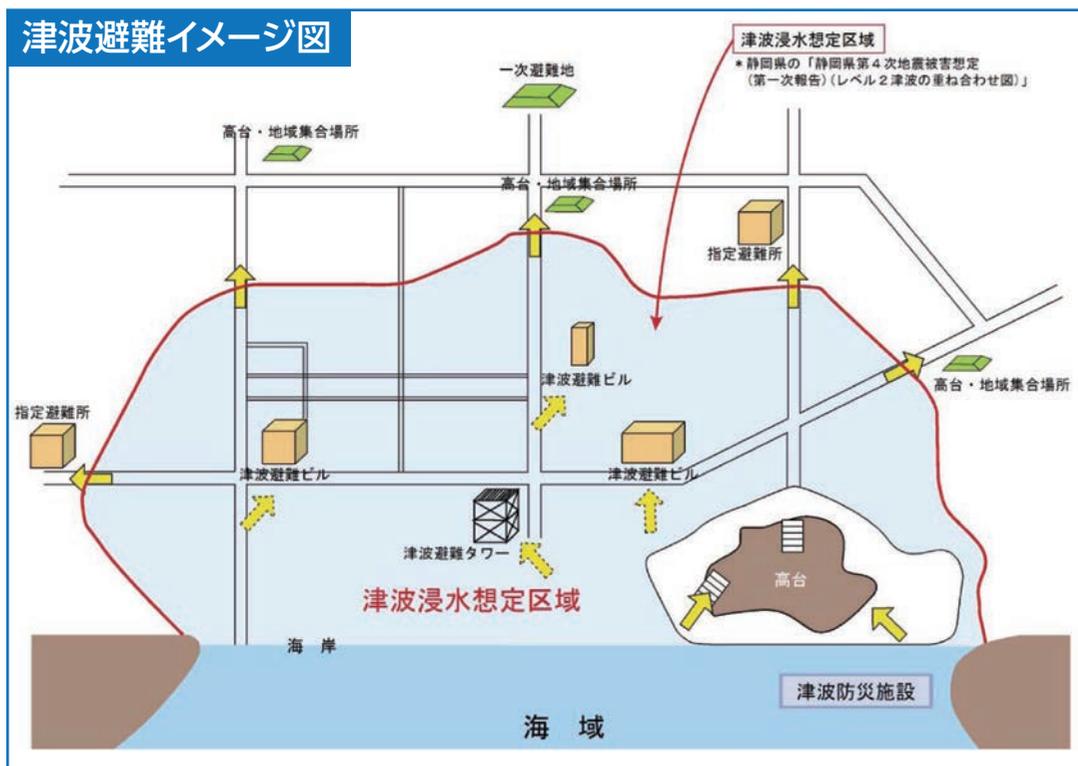
**地震発生後3分で避難開始**

**平地や斜面を1秒で1m進む**(水平および斜面移動速度1.0m/s)等

●なお、上記の基準で津波の到達までに避難先にたどりつくことができないエリアは、さらに急いだ避難を実施しなければなりません。



津波避難イメージ図



## 津波避難心得

●いざという時のために、日ごろから以下を心得ておくことが大切です。

### ① まず、我が身の安全を真っ先に考えること

・自分がけがをしては、避難もまなりません。

### ② 素早く避難を開始すること(地震発生から**3分**で避難開始)

・**南伊豆町は最短約6分で津波が到達します。**

揺れが残っていても、できる限り急いで避難しましょう。

### ③ あらかじめ避難先を把握しておくこと

・災害はいつ起こるかわかりません。避難する場所を普段から確認しておきましょう。

### ④ 素早い避難をすること(**1秒で1m進む避難**をしましょう)

・津波はとても早いため、のんびり歩いては間に合いません。

### ⑤ 避難を妨げる問題がどこにあるか把握しておくこと

・円滑な避難のために、予め地域のどこに避難を妨げる問題があるか把握しておくことが重要です。

### ⑥ 避難を妨げる問題に対して対策を講じ、解消すること

・地震で家具が転倒すると、ケガをするばかりか、迅速な避難ができなくなります。安全に避難するためには、家庭や地域で出来る地震対策(家具の固定・通路の整理・耐震化)が重要となります。



# 津波・高潮・波浪警報・注意報

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目途に津波警報（大津波、津波）または津波注意報を発表します。

また、高潮・波浪による災害の発生が予想される場合には、高潮・波浪警報または高潮・波浪注意報を発表します。

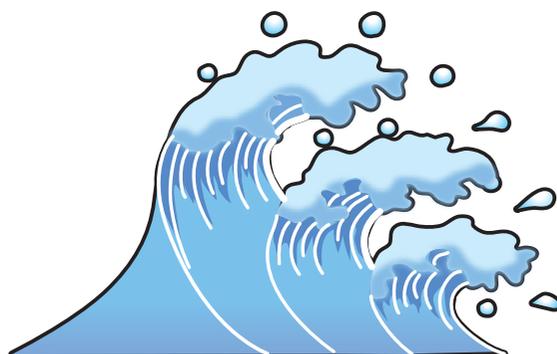
## 津波警報・注意報の種類

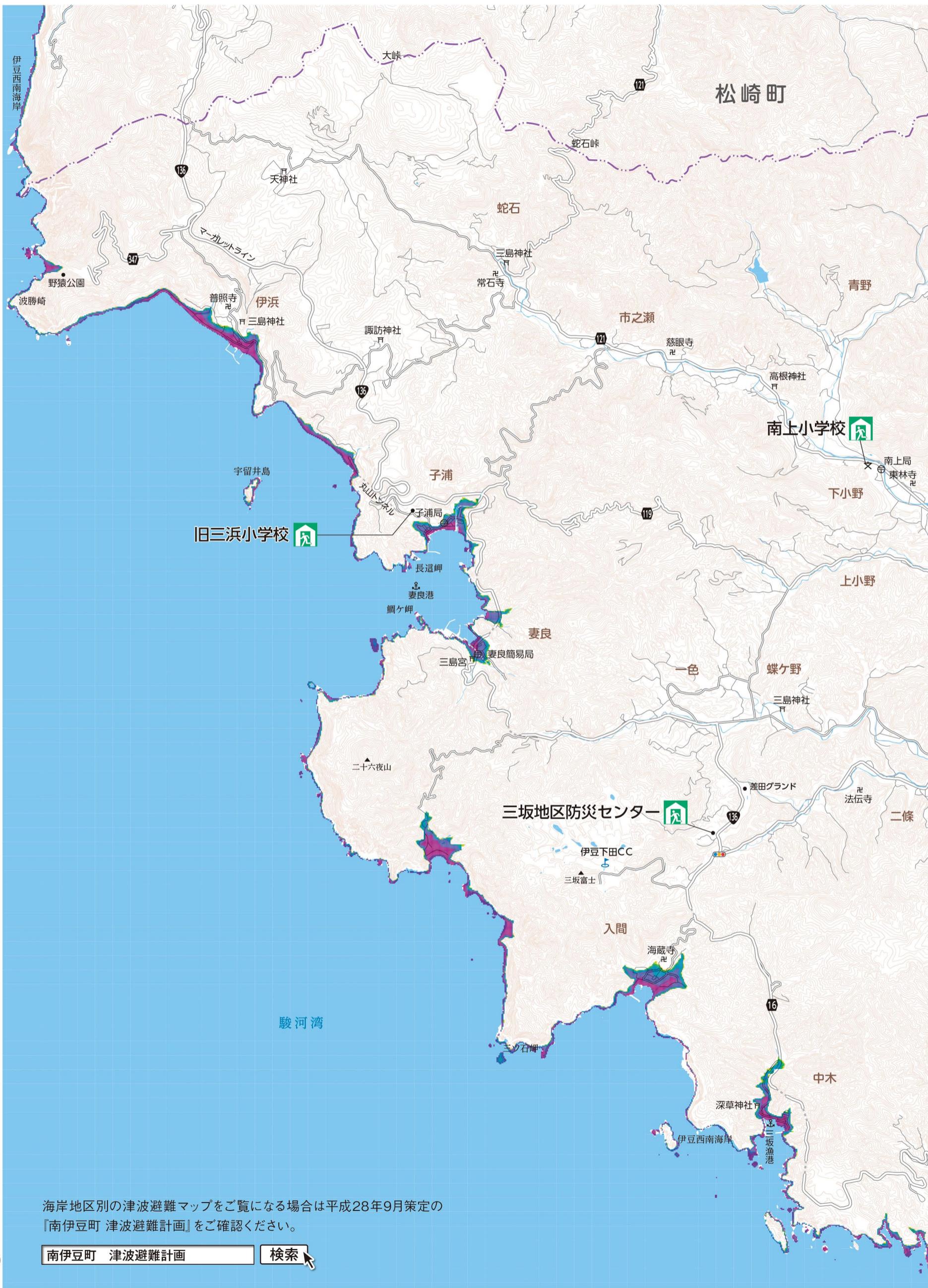
※大津波警報は特別警報に位置づけられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		巨大地震の場合の発表	想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)			
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m<予想高さ)		巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10m (5m<予想高さ≤10m)			
		5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m<予想高さ≤3m)		高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)		(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

## 高潮・波浪警報・注意報の種類

種類	発表の基準
高潮警報	予想される潮位が1.5m以上である場合。
高潮注意報	予想される潮位が1.1m以上1.5m未満である場合。
波浪警報	有義波高6m以上である場合。
波浪注意報	有義波高3m以上6m未満である場合。





海岸地区別の津波避難マップをご覧になる場合は平成28年9月策定の『南伊豆町 津波避難計画』をご確認ください。

南伊豆町 津波避難計画

検索



- 休暇村南伊豆
- 壺中の天宿〇文
- 津波避難タワー

**津波浸水想定図  
(最大浸水深)**

- 10m以上
- 5m～10m
- 2m～5m
- 1m～2m
- 0.3m～1m
- 0.3m未満

0 3km

縮尺 1 : 38,000

南伊豆認定こども園

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平29情使、第444-836号)」

# 風水害対策について

まずは、  
確実な情報が大事  
その次に迅速な対応

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

### 南伊豆町の大雨注意報・警報の発表基準

#### 大雨注意報

大雨によって災害が起こる  
おそれがあると予測される場合。

- ・表面雨量指数(注1) 10
- ・土壌雨量指数(注2) 16

#### 大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる  
おそれがあると予測される場合。

(浸水害) 表面雨量指数80 (土砂災害) 土壌雨量指数126

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

### 雨の強さと降り方 (1時間雨量:mm)

#### 10以上～20未満

雨の音で話し声がよく聞き取れない。

#### 20以上～30未満

ワイパーを速くしても見づらい。側溝、小さな川があふれる。

#### 30以上～50未満

山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。

#### 50以上～80未満

土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。車の運転は危険。傘は全く役に立たなくなる。

#### 80以上～

雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

### 風の強さと吹き方 (平均風速:m/秒)

#### 10以上～15未満

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

#### 15以上～20未満

風に向かって歩けない。転倒する人もいる。

#### 20以上～25未満

しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

#### 25以上～

立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

### 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。  
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

強さ	最大風速
強い	33m/秒以上44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上

### 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。  
発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに  
気象情報には、  
注意して  
おきましょう！



注1 表面雨量指数:短時間の強い雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中にしみ込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。  
注2 土壌雨量指数:大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

# 大雨による災害の種類

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にそのメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

## 川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

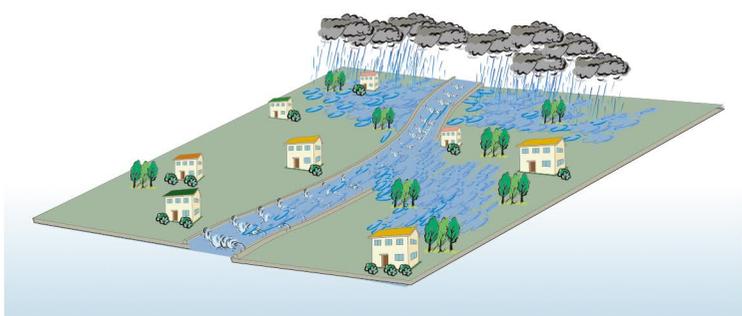
### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



## 土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

### がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



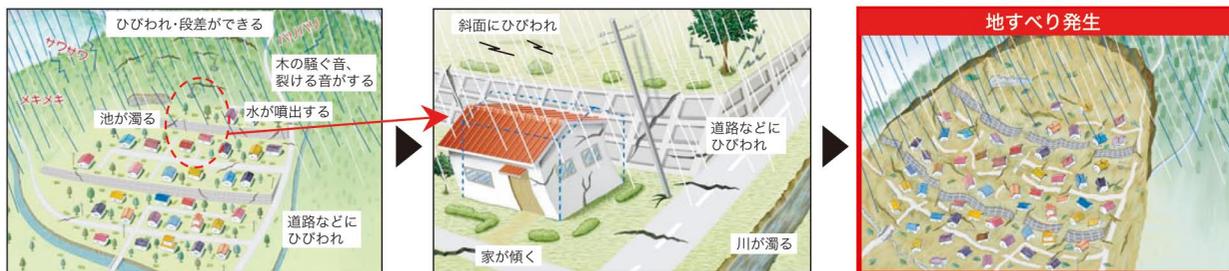
### 土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

# 洪水ハザード情報について

水防法に基づき、青野川の浸水域をマップに掲載しています。  
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

## 1 氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

## 2 説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用しているハザード情報は、南伊豆町に關係する河川(青野川)が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合がありますので、十分注意しましょう。

### 青野川の目安

浸水深	浸水程度の目安
5.0m～	2階の屋根以上が浸水する
2.0～5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0～2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5～1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0～0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

※13頁からの「詳細図」に掲載

## 3 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

### 洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこるおそれがある場合、その旨を注意して行う予報。

### 洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこるおそれがある場合、その旨を警告して行う予報。

### 指定河川洪水予報など

- 青野川については、水位周知河川(静岡県知事指定河川)に指定されており、静岡地方気象台の予測する降水量をもとに、河川を管理する静岡県が河川水位の危険度を予測し、「洪水予報」を共同発表します。

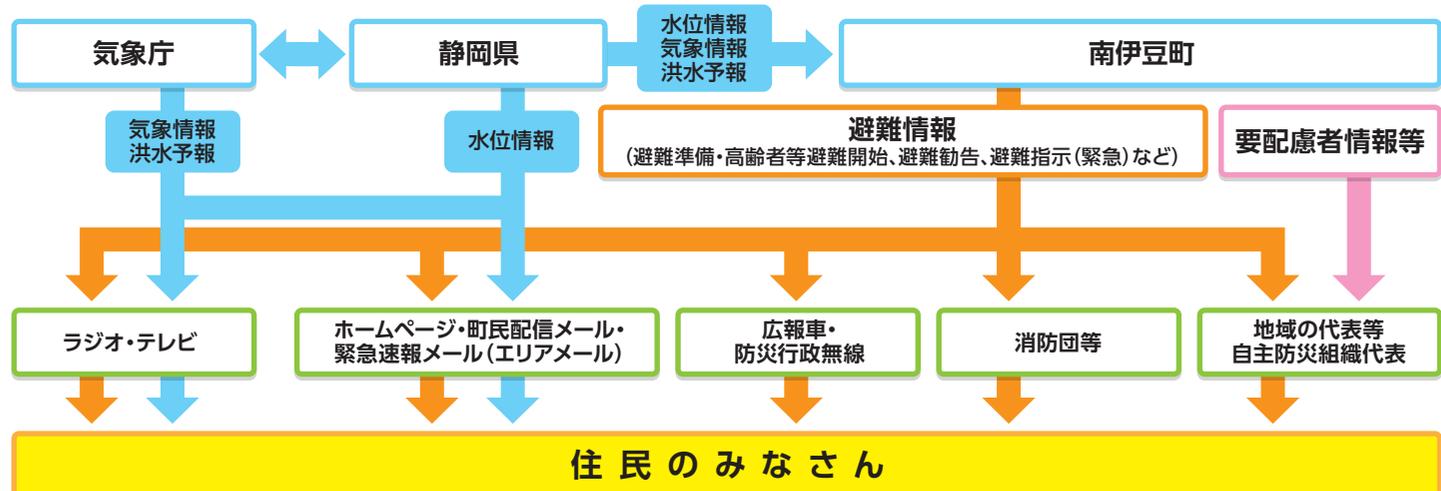
### 水位にともなう判断基準イメージ



※基準水位や現況水位は、「静岡県河川・砂防情報システム」で確認できます。  
<http://www.kasen.pref.shizuoka.jp/bousai/>

## 4 洪水情報の伝達ルート(土砂災害情報も同じ)

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



避難情報の伝達ルートがオレンジ色になります。  
情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

# 自主防災組織 災害に強い地域をつくりませんか？

## 地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。  
 ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。  
 災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？



## 1. 自主防災組織とは？

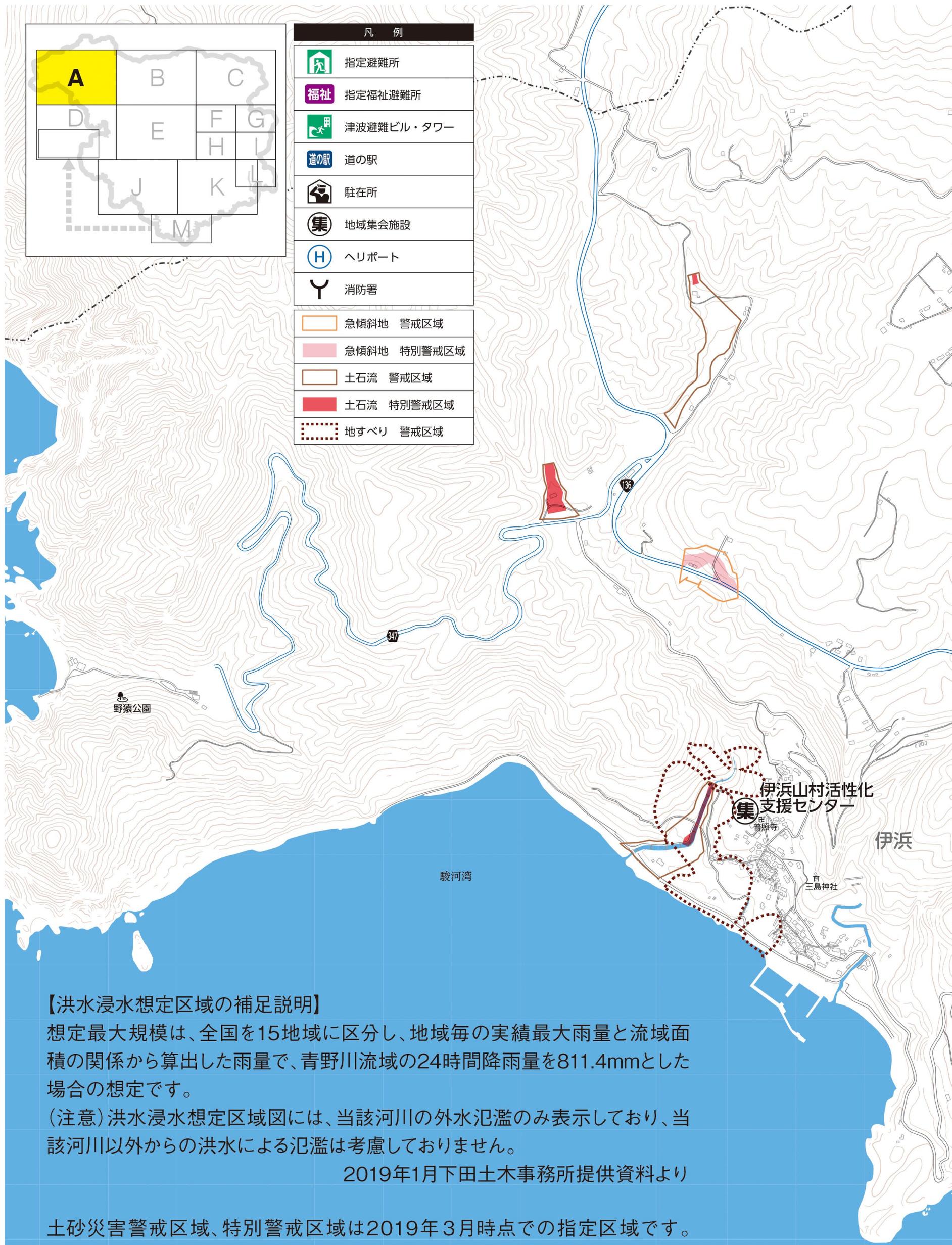
- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。

## 2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。  
 このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。  
 より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（=体制づくり）が重要です。

● 各班の日頃（平常時）と緊急時（災害発生時）の活動内容は概ね次のような役割になります。

	平常時	緊急時
<b>情報班</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民に対する連絡体制、手段の検討</li> <li>○情報収集・伝達訓練の実施</li> <li>○防災意識の啓発、高揚に関する広報</li> <li>○公的防災機関との連携確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達</li> <li>○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告</li> <li>○混乱回避、出火防止等の広報</li> </ul>
<b>消火班</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火訓練の実施</li> <li>○消火用水の確保、確認</li> <li>○出火防止の啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火活動</li> <li>※<u>消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!!</u></li> <li>○情報班と連携しての出火防止等の広報</li> </ul>
<b>避難誘導班</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に避難路、避難場所を把握</li> <li>○避難誘導訓練の実施</li> <li>○避難路の安全点検</li> <li>※<u>危険箇所（がけ、ブロック塀）などの確認等</u></li> <li>○避難行動要支援者の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報班と連携しての避難の呼びかけ</li> <li>○安全な経路を選択しての避難誘導</li> <li>○避難行動要支援者の避難支援</li> <li>○避難地での安否確認</li> <li>○安否確認による救出救護班への情報伝達</li> </ul>
<b>救出救護班</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○応急手当、衛生知識の普及</li> <li>○救命講習への参加</li> <li>○応急医薬品、救助資機材の確保、点検</li> <li>○技能、ノウハウを持った住民の把握</li> <li>○救助用資機材の点検・確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難誘導班と連携しての速やかな救出</li> <li>※<u>救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意して下さい。</u></li> <li>○負傷者の搬送、応急手当の救護</li> <li>○避難所・救護所での救護活動への協力</li> </ul>
<b>給食・給水班</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発</li> <li>○炊き出し訓練の実施</li> <li>○炊き出し用資機材の確保、点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料や水、救援物資等の受入、配布</li> <li>○必要に応じて炊き出し</li> </ul>



凡 例	
	指定避難所
	指定福祉避難所
	津波避難ビル・タワー
	道の駅
	駐在所
	地域集会施設
	ヘリポート
	消防署
	急傾斜地 警戒区域
	急傾斜地 特別警戒区域
	土石流 警戒区域
	土石流 特別警戒区域
	地すべり 警戒区域

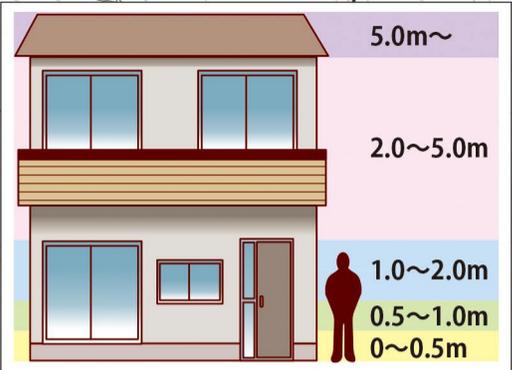
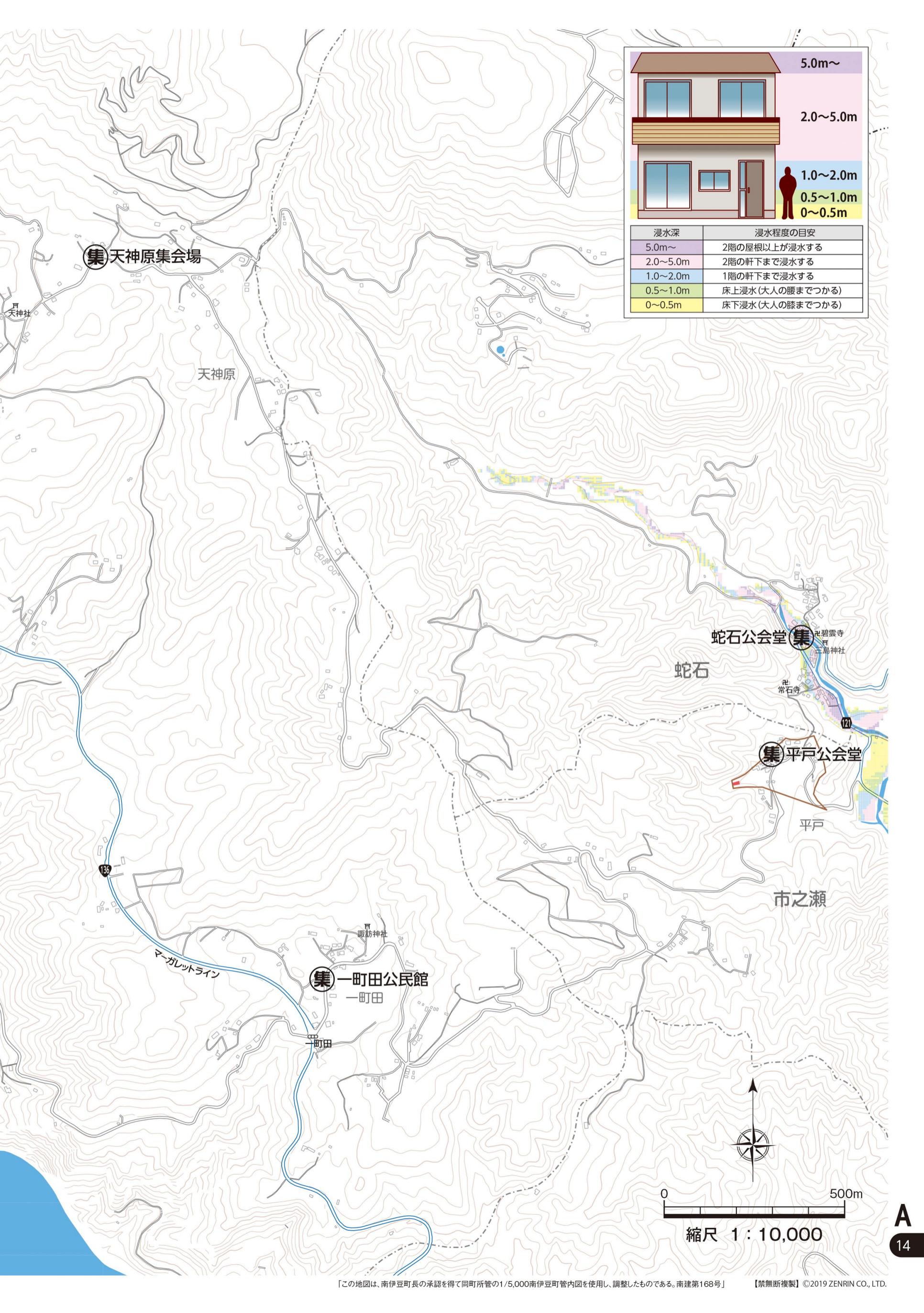
**【洪水浸水想定区域の補足説明】**

想定最大規模は、全国を15地域に区分し、地域毎の実績最大雨量と流域面積の関係から算出した雨量で、青野川流域の24時間降雨量を811.4mmとした場合の想定です。

(注意) 洪水浸水想定区域図には、当該河川の外水氾濫のみ表示しており、当該河川以外からの洪水による氾濫は考慮しておりません。

2019年1月下田土木事務所提供資料より

土砂災害警戒区域、特別警戒区域は2019年3月時点での指定区域です。2019年4月以降の追加指定に関する最新の情報は静岡県地理情報システム (<https://www.gis.pref.shizuoka.jp/>) よりご確認ください。



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

集 天神原集会場

天神原

蛇石公会堂 集

蛇石

集 平戸公会堂

平戸

市之瀬

集 一町田公民館

一町田

マーガレットライン

0 500m

縮尺 1 : 10,000

賀茂郡  
松崎町

蛇石峠

蛇石

南伊豆町

青野大師ダム

市之瀬

青野川

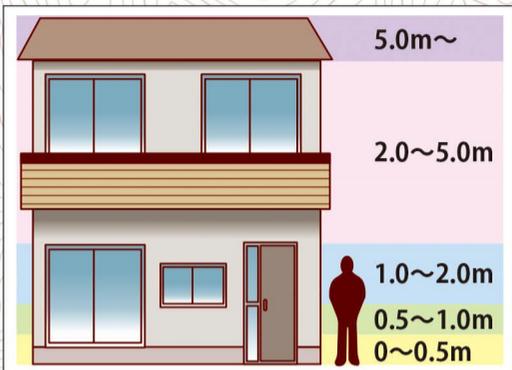
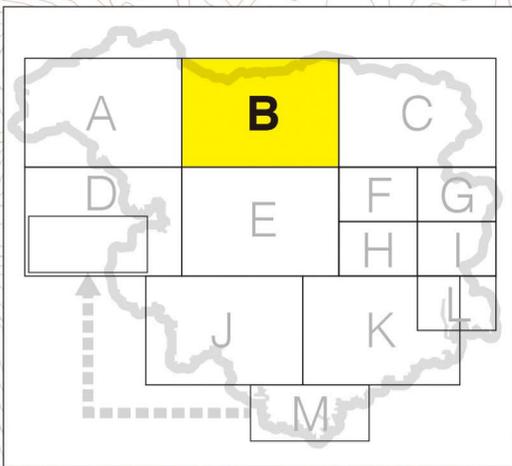
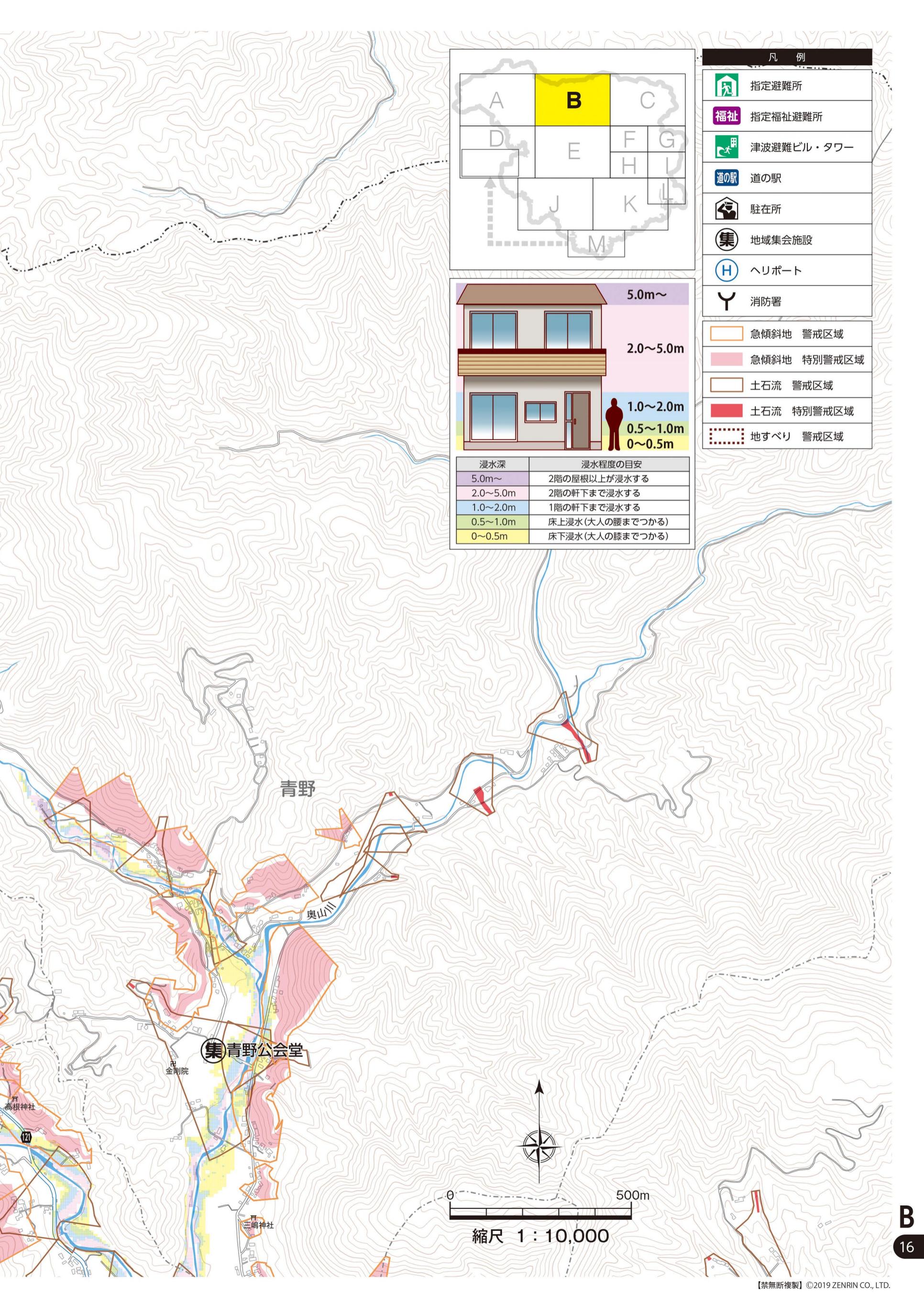
市之瀬診療所

慈眼寺

高根神社

集市之瀬高齢者活動促進センター

川合野



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

- 凡 例
- 指定避難所
  - 福祉 指定福祉避難所
  - 津波避難ビル・タワー
  - 道の駅
  - 駐在所
  - 地域集会施設
  - ヘリポート
  - 消防署

- 急傾斜地 警戒区域
- 急傾斜地 特別警戒区域
- 土石流 警戒区域
- 土石流 特別警戒区域
- 地すべり 警戒区域

青野

奥山川

**集** 青野公会堂

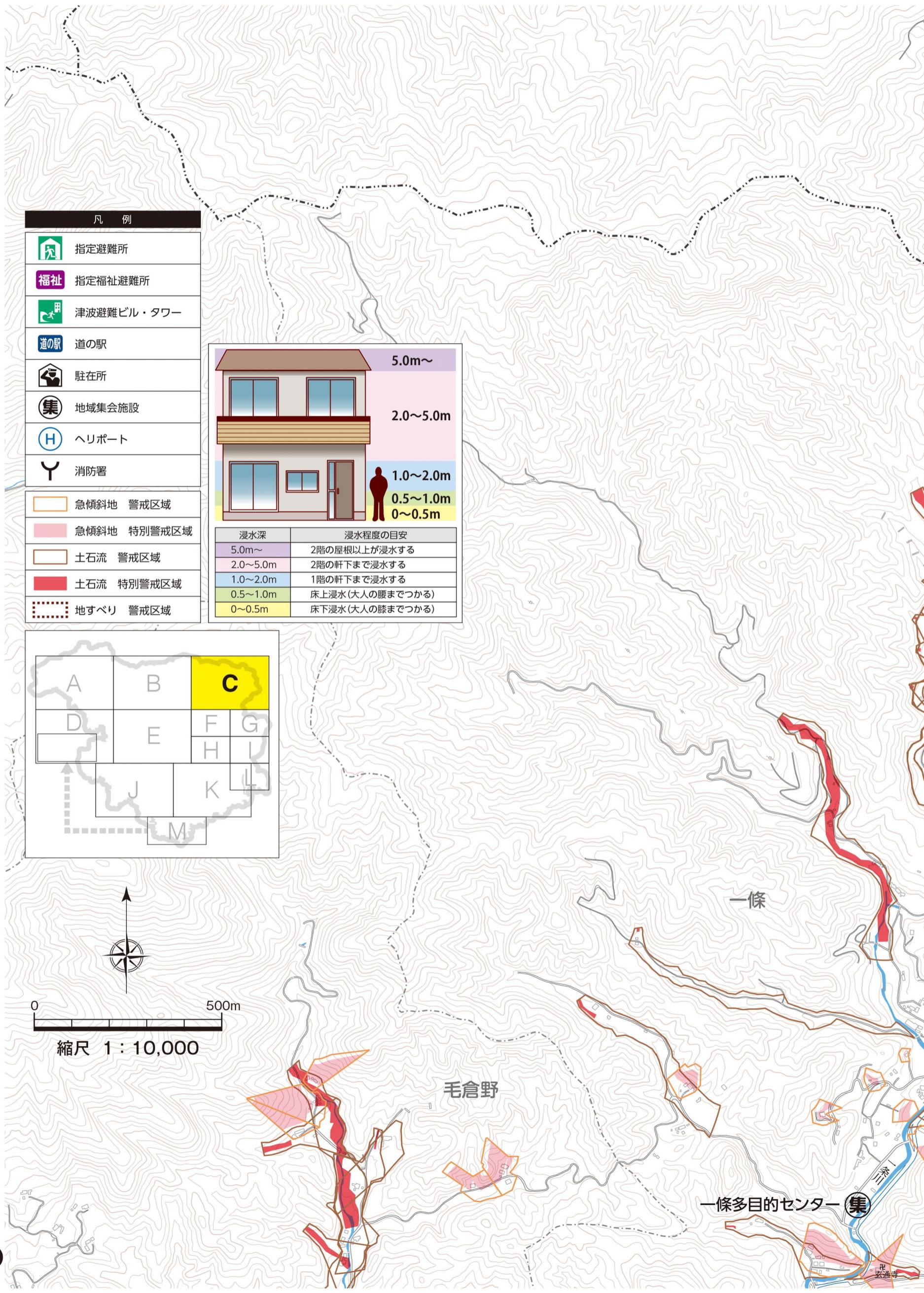
金剛院

月高根神社

三嶋神社

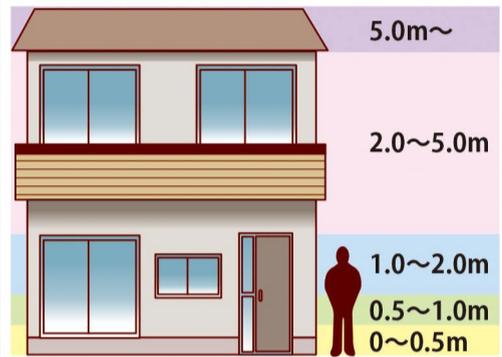


縮尺 1 : 10,000

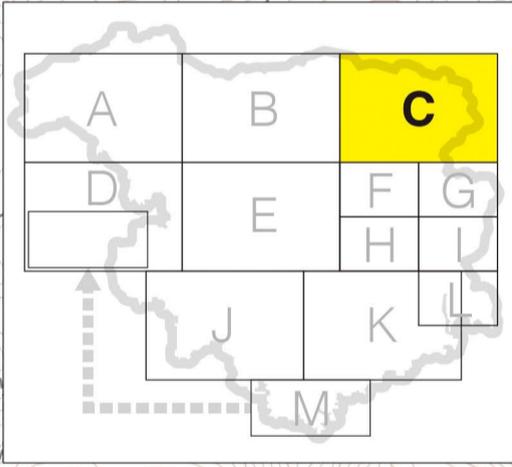


凡 例

- 指定避難所
- 指定福祉避難所
- 津波避難ビル・タワー
- 道の駅
- 駐在所
- 地域集会施設
- ヘリポート
- 消防署
- 急傾斜地 警戒区域
- 急傾斜地 特別警戒区域
- 土石流 警戒区域
- 土石流 特別警戒区域
- 地すべり 警戒区域



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)



0 500m

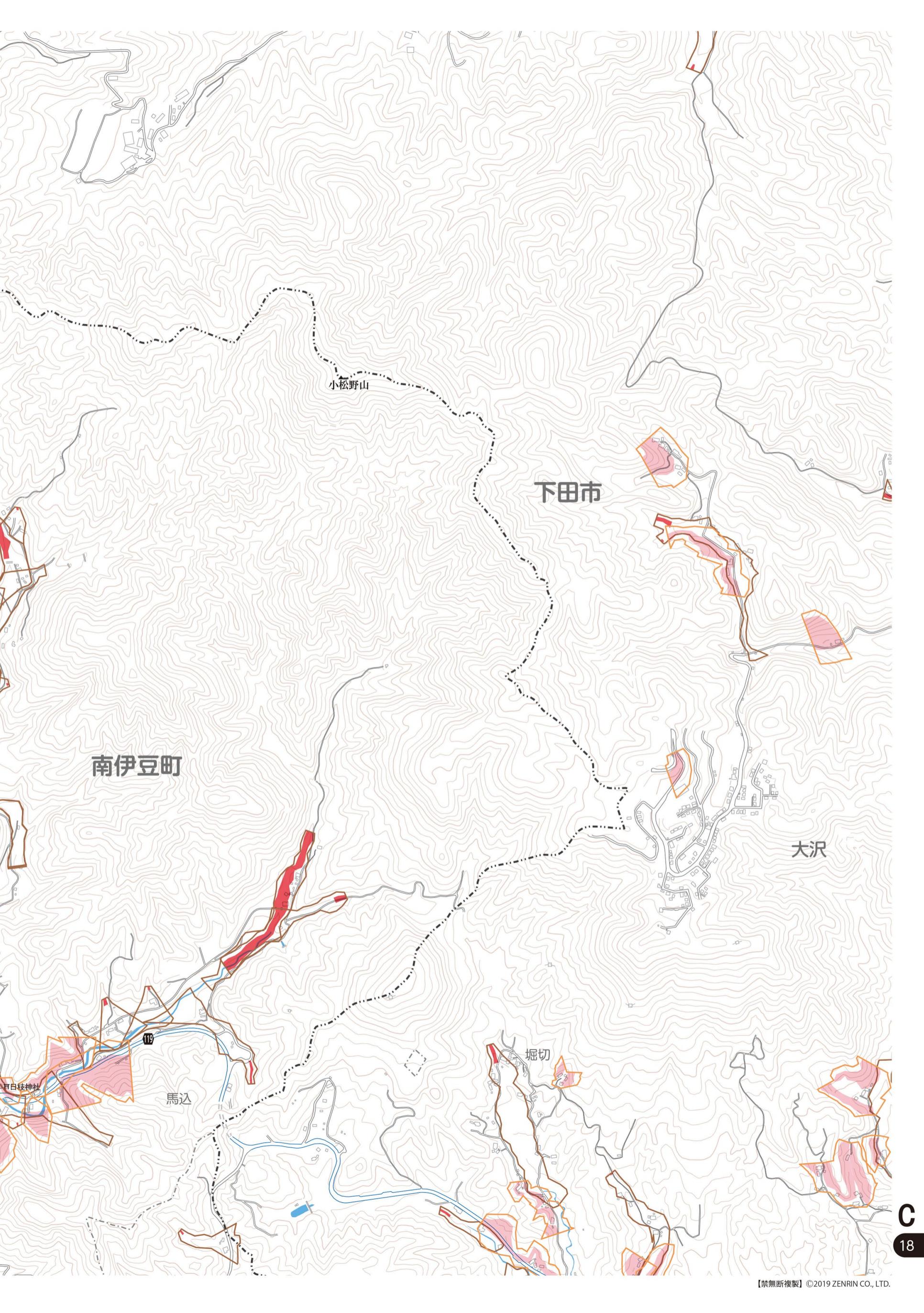
縮尺 1 : 10,000

毛倉野

一條

一條多目的センター (集)

足  
安  
通  
寺



小松野山

下田市

南伊豆町

大沢

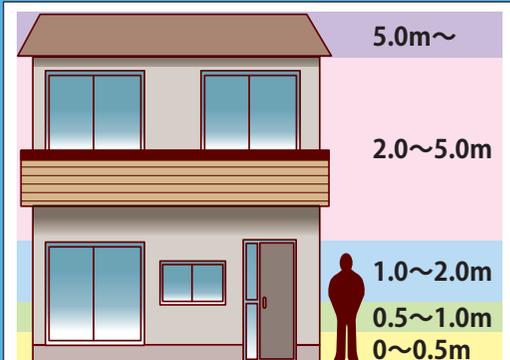
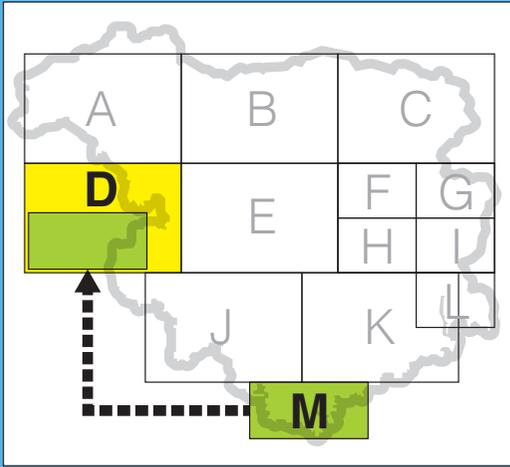
堀切

馬込

戸白枝神社

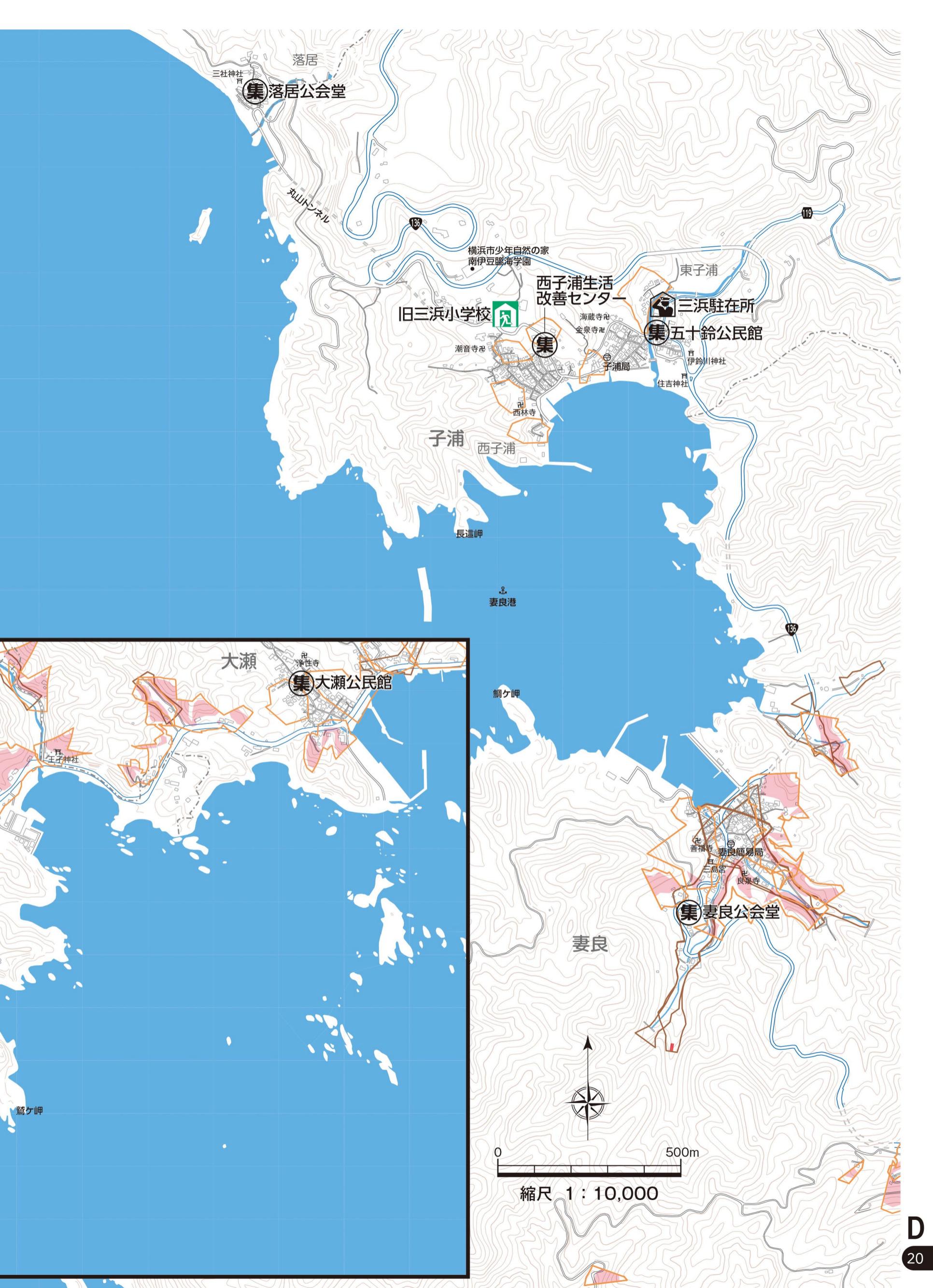
凡 例

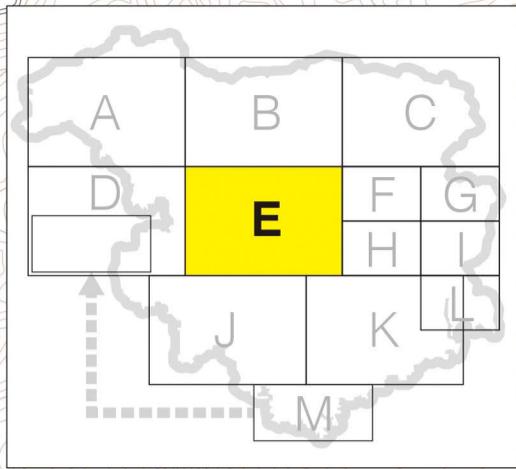
-  指定避難所
-  福祉 指定福祉避難所
-  津波避難ビル・タワー
-  道の駅
-  駐在所
-  地域集会施設
-  ヘリポート
-  消防署
-  急傾斜地 警戒区域
-  急傾斜地 特別警戒区域
-  土石流 警戒区域
-  土石流 特別警戒区域
-  地すべり 警戒区域



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

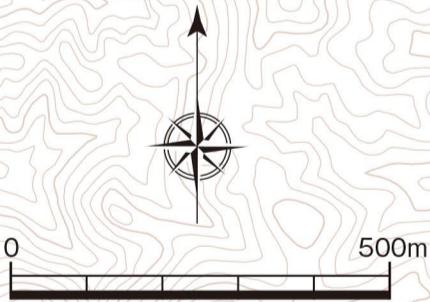




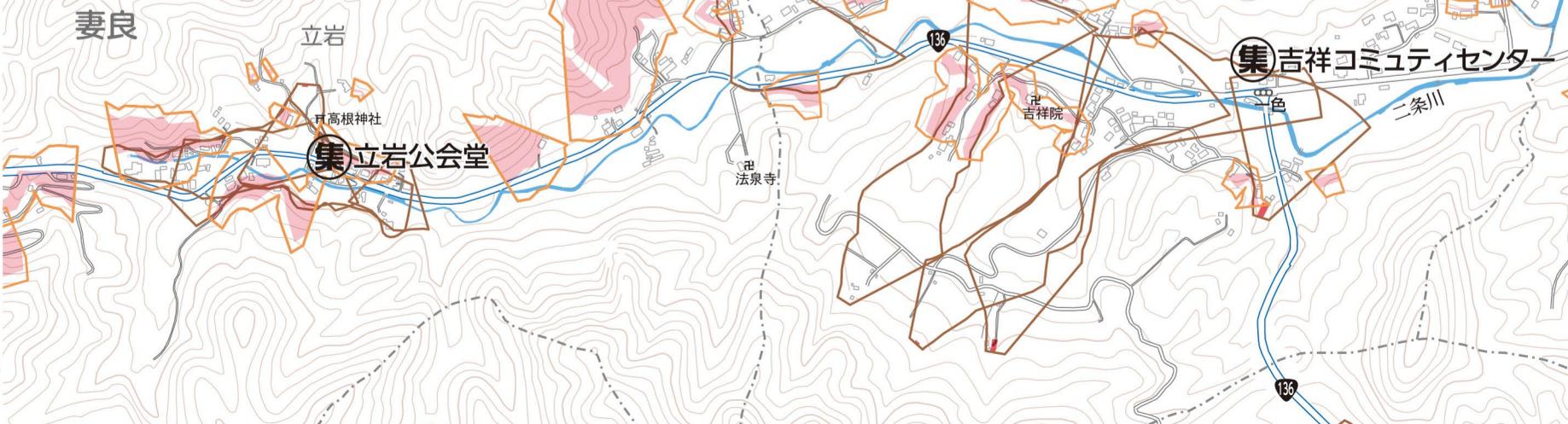


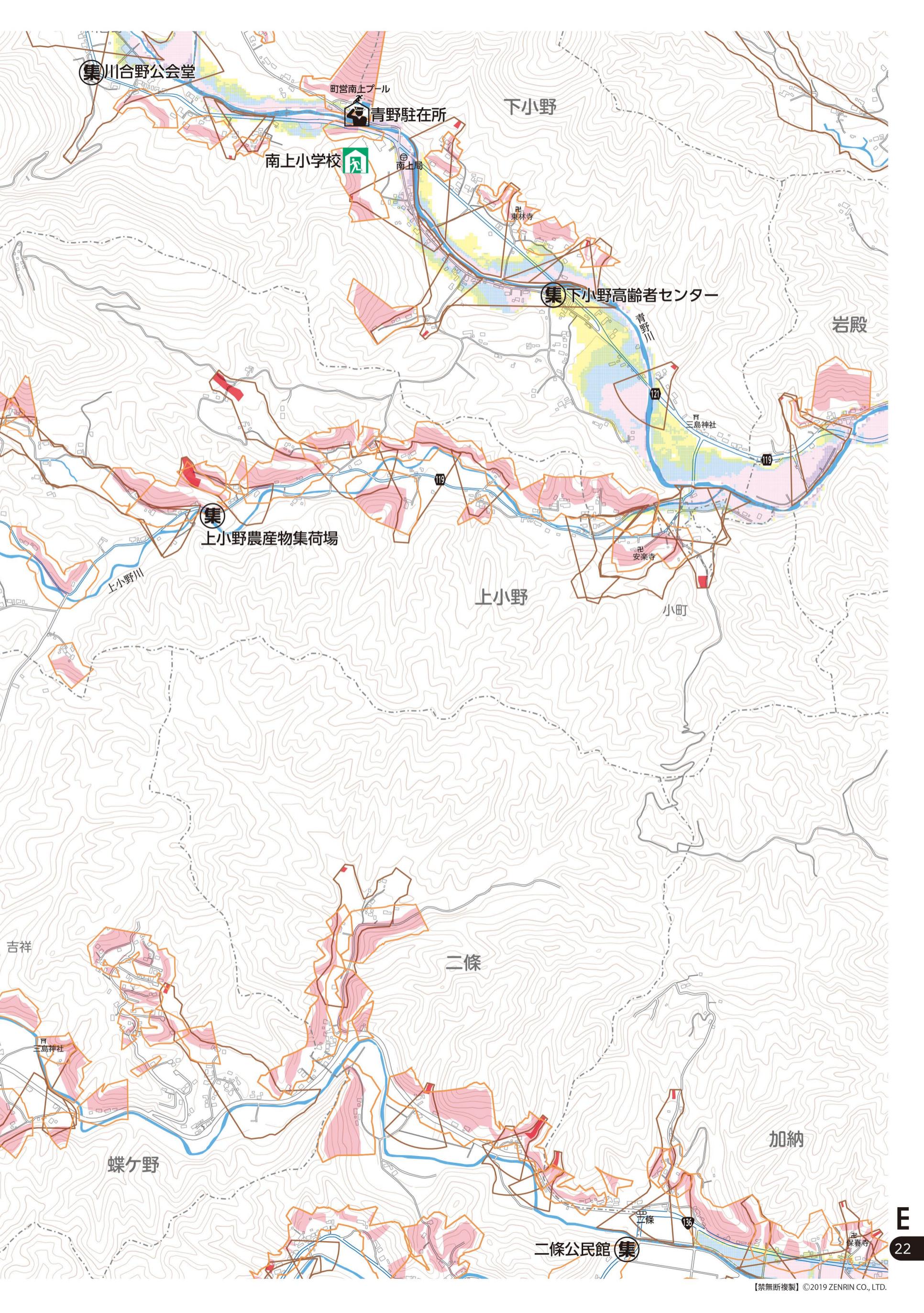
- 凡 例
- 指定避難所
  - 福祉指定避難所
  - 津波避難ビル・タワー
  - 道の駅
  - 駐在所
  - 地域集会施設
  - ヘリポート
  - 消防署
  - 急傾斜地 警戒区域
  - 急傾斜地 特別警戒区域
  - 土石流 警戒区域
  - 土石流 特別警戒区域
  - 地すべり 警戒区域

浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)



縮尺 1 : 10,000





川合野公会堂

町営南上プール  
青野駐在所

南上小学校

下小野

下小野高齢者センター

岩殿

上小野農産物集荷場

上小野川

上小野

小町

吉祥

二條

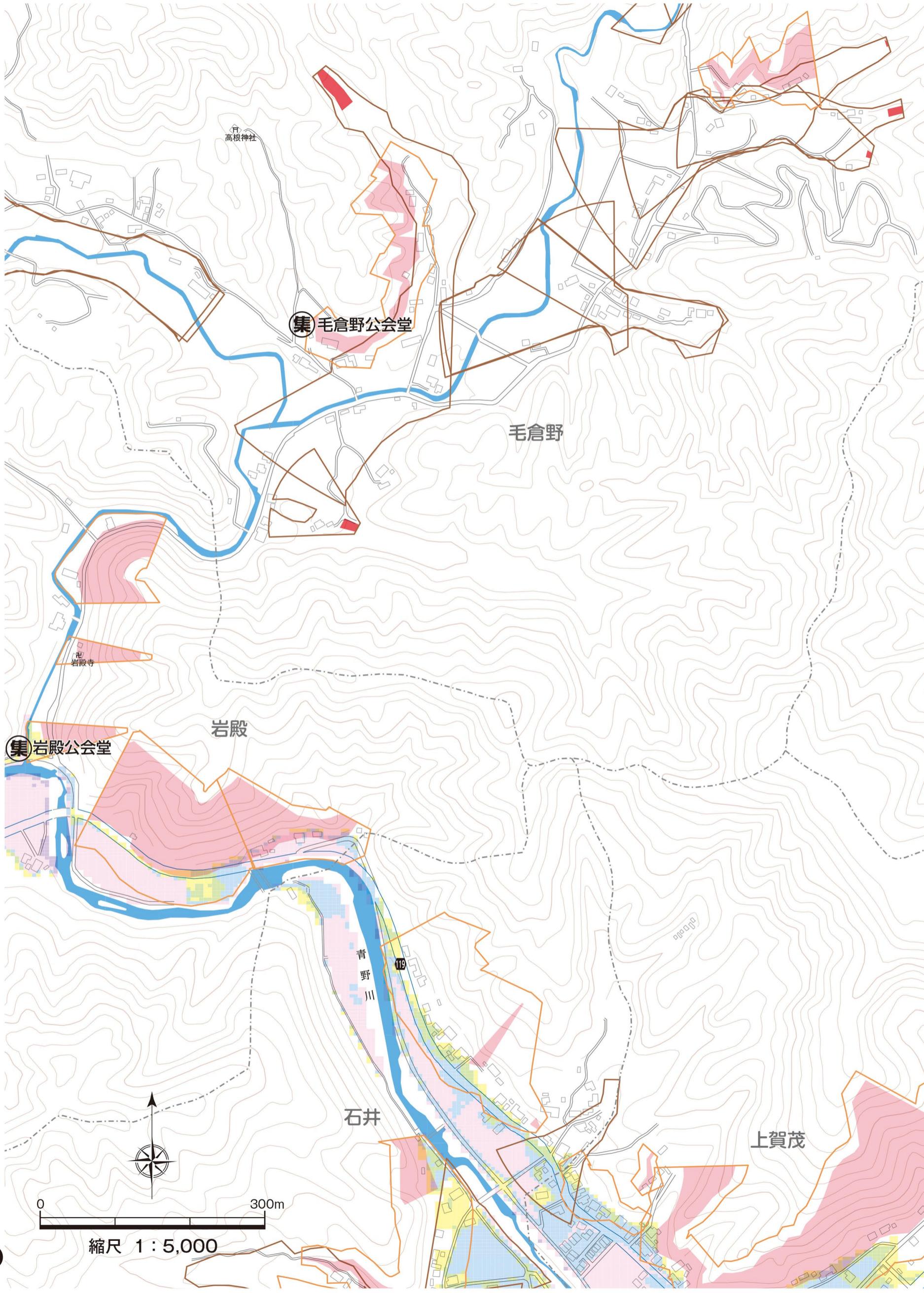
加納

蝶々野

二條公民館

E

22



高根神社

集 毛倉野公会堂

毛倉野

岩殿寺

岩殿

集 岩殿公会堂

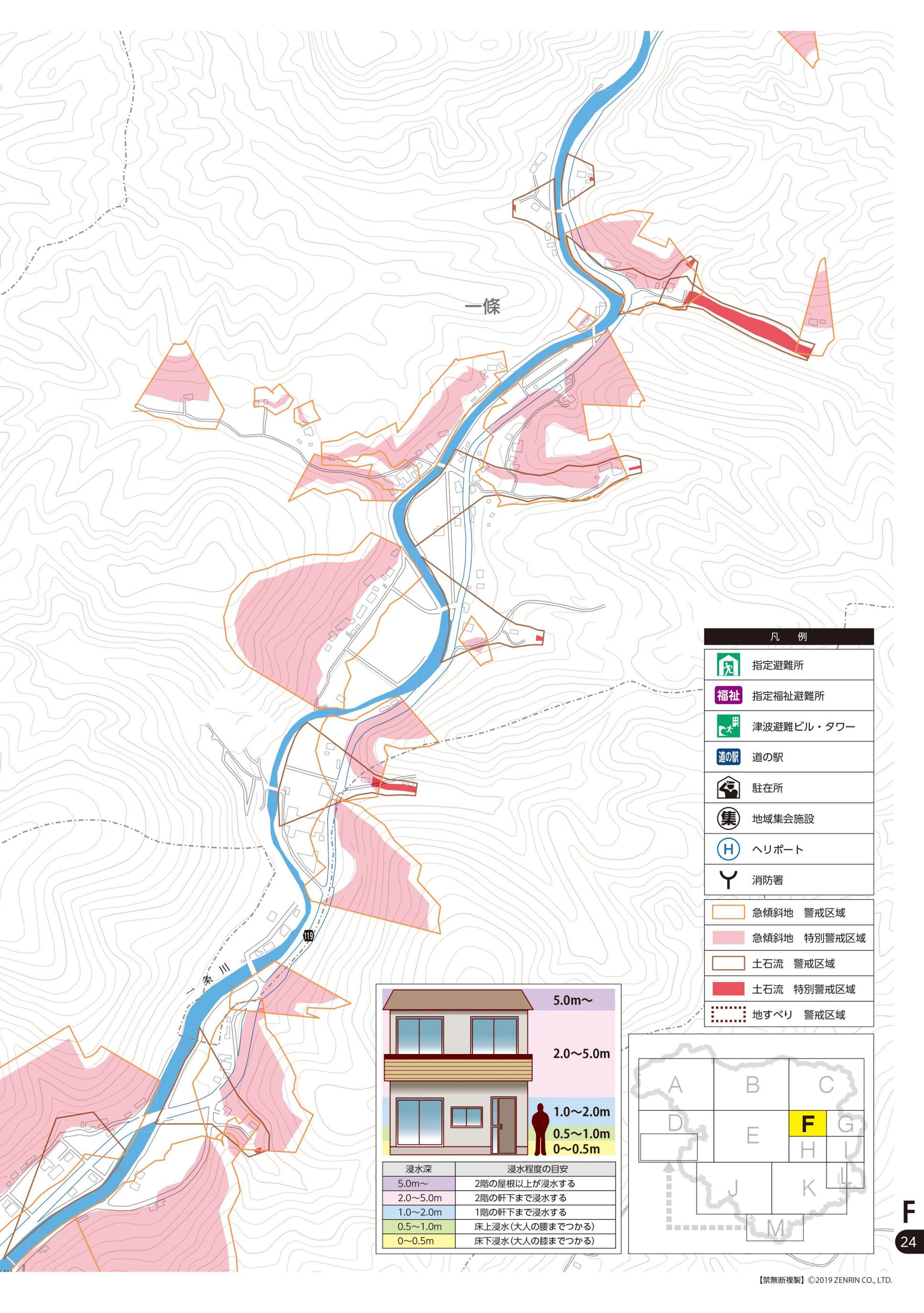
青野川

石井

上賀茂

0 300m

縮尺 1 : 5,000

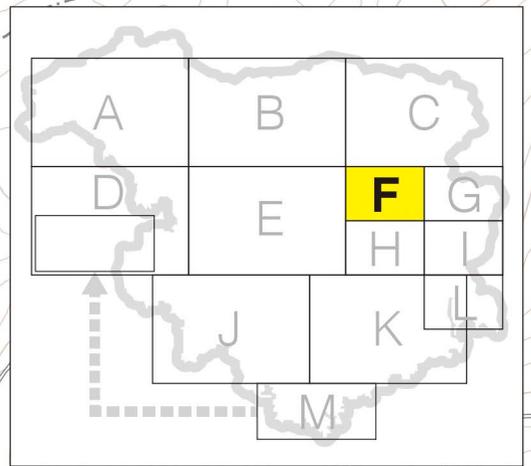
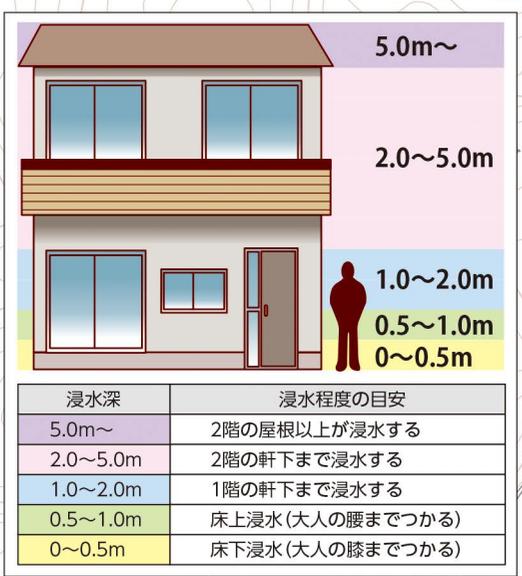


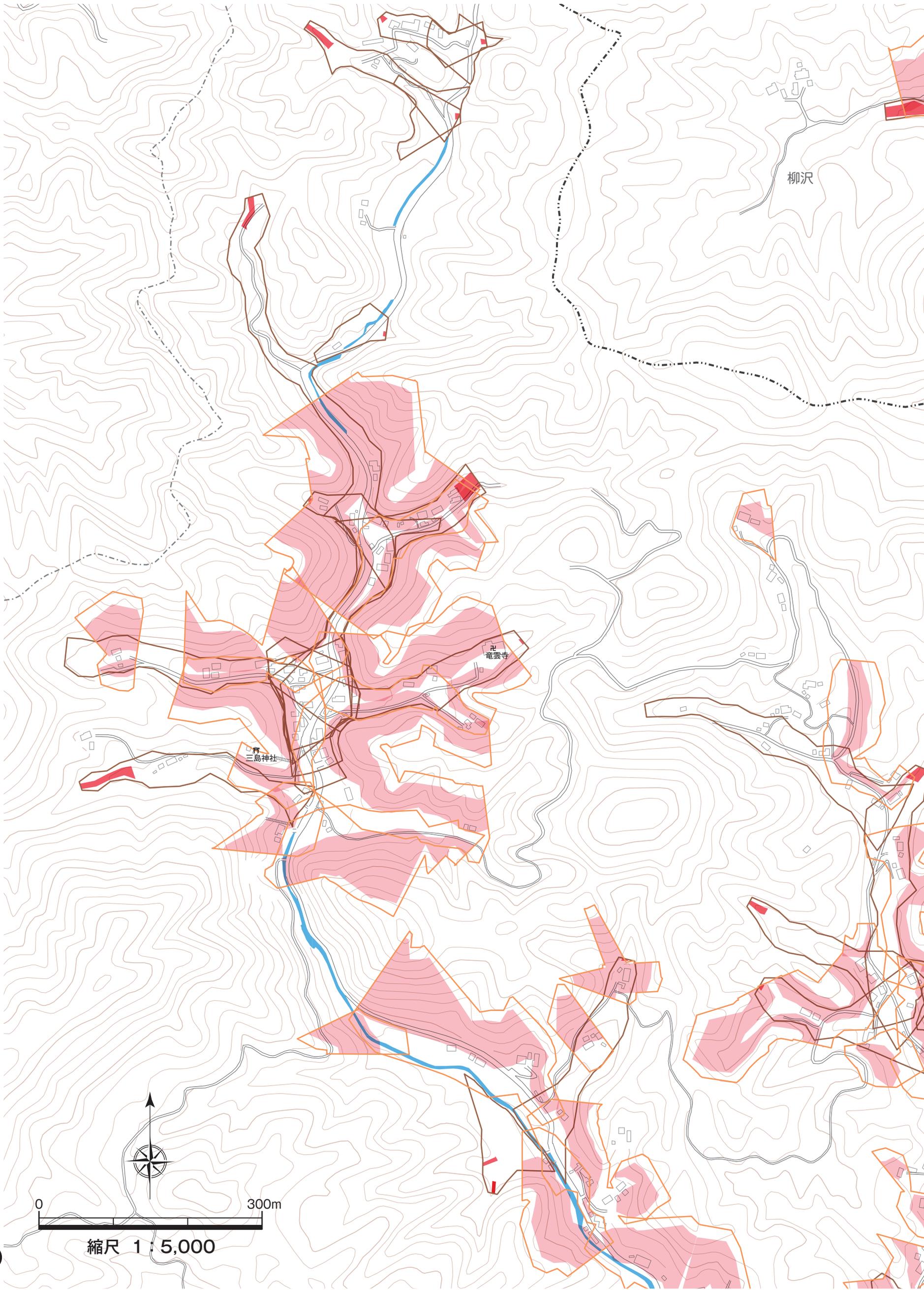
一条

一条川

凡例

-  指定避難所
-  指定福祉避難所
-  津波避難ビル・タワー
-  道の駅
-  駐在所
-  地域集会施設
-  ヘリポート
-  消防署
-  急傾斜地 警戒区域
-  急傾斜地 特別警戒区域
-  土石流 警戒区域
-  土石流 特別警戒区域
-  地すべり 警戒区域





柳沢

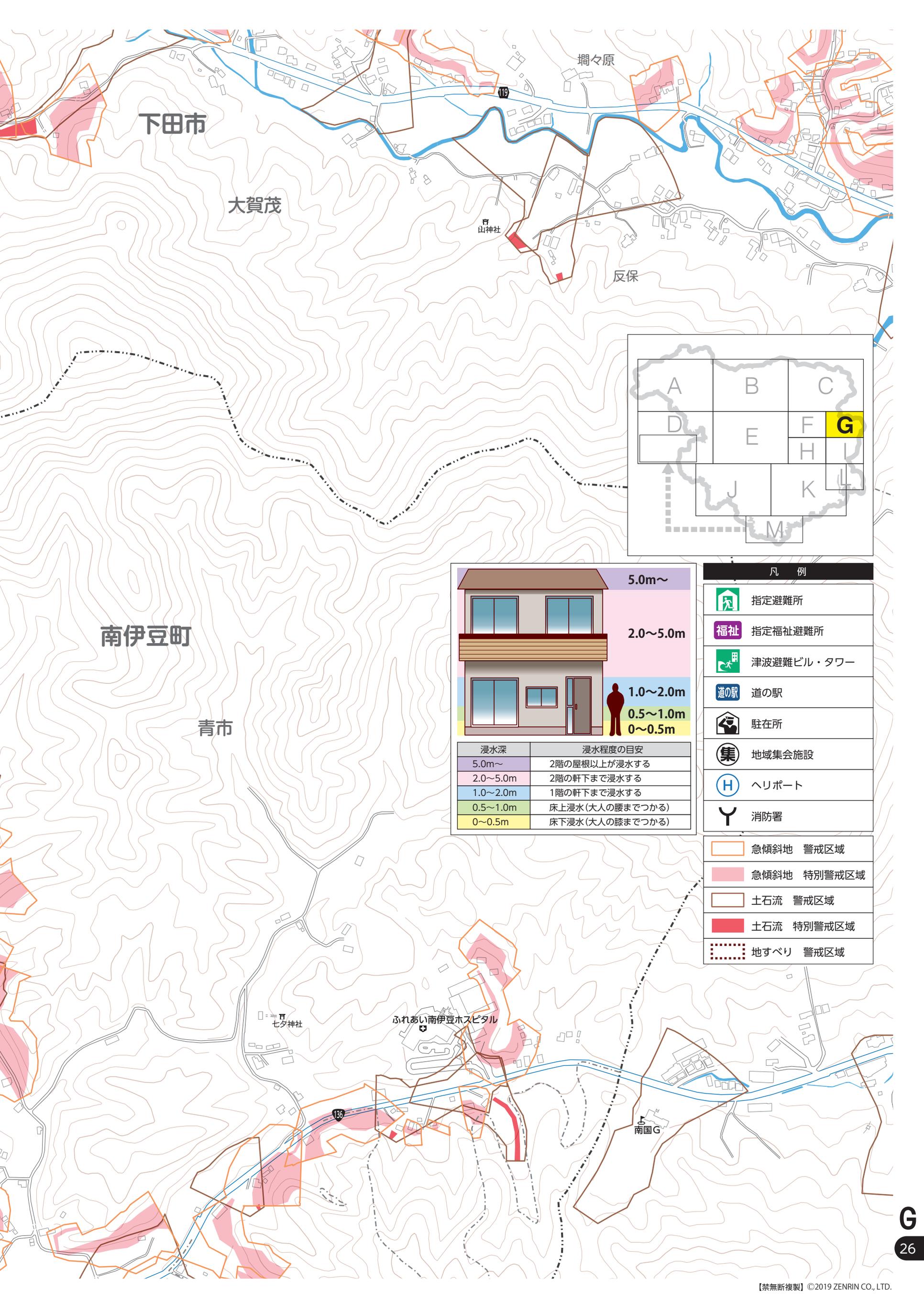
龍雲寺

三島神社



縮尺 1 : 5,000





下田市

大賀茂

堀々原

行山神社

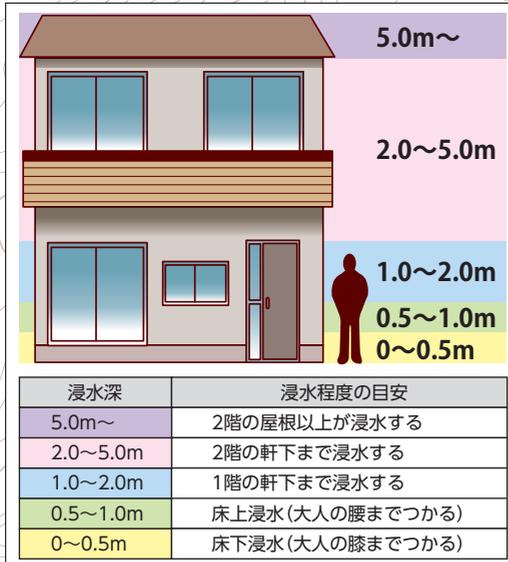
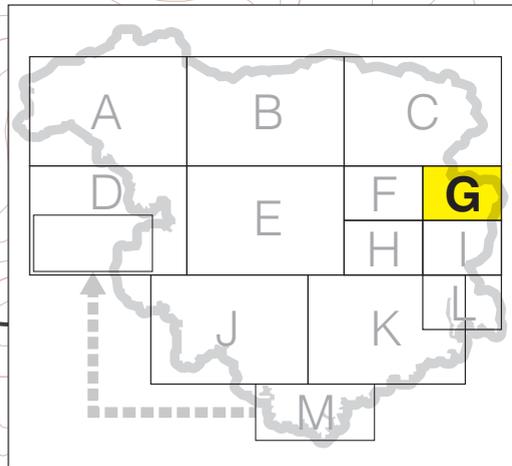
反保

南伊豆町

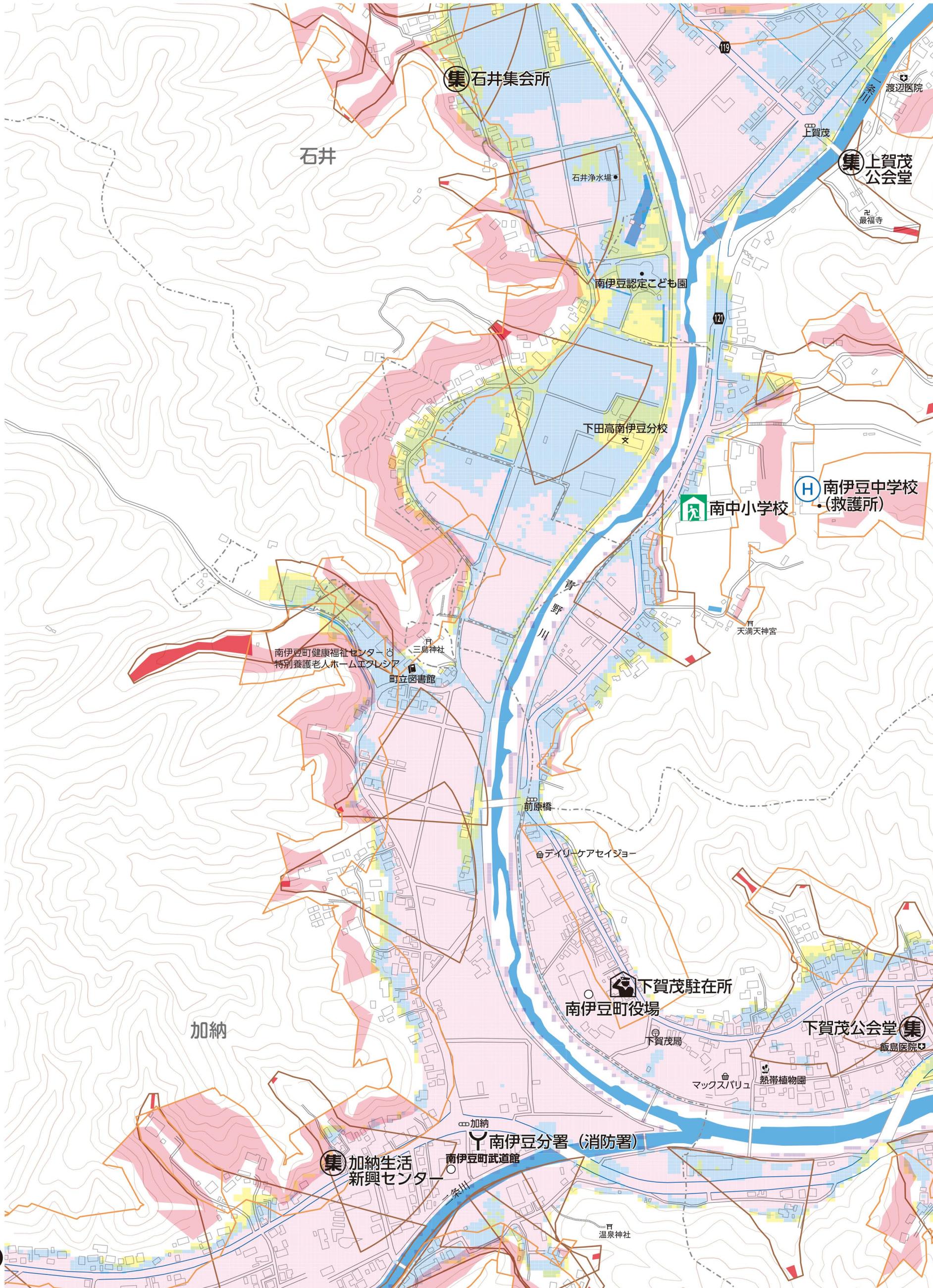
青市

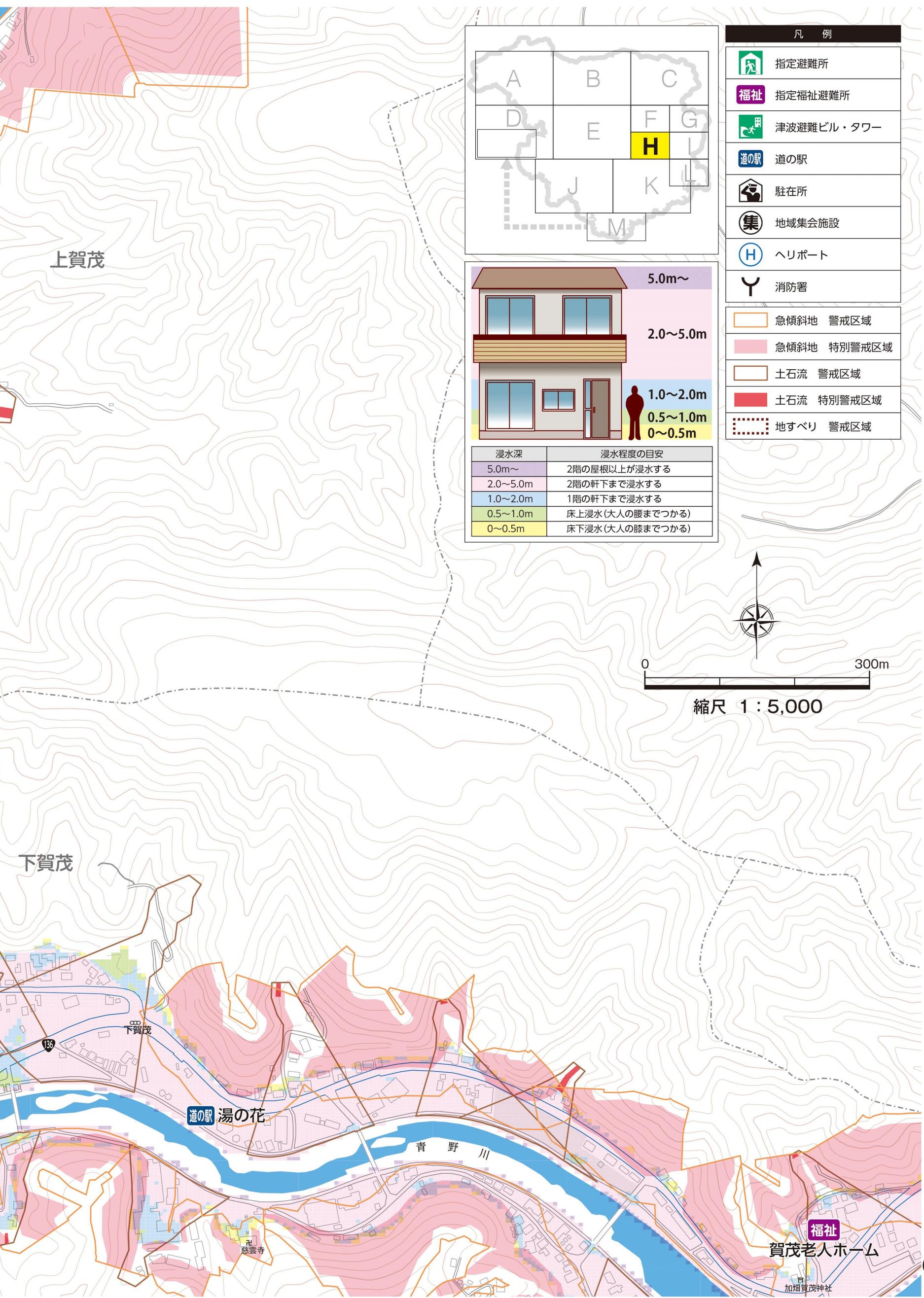
ふれあい南伊豆ホスピタル

南国G



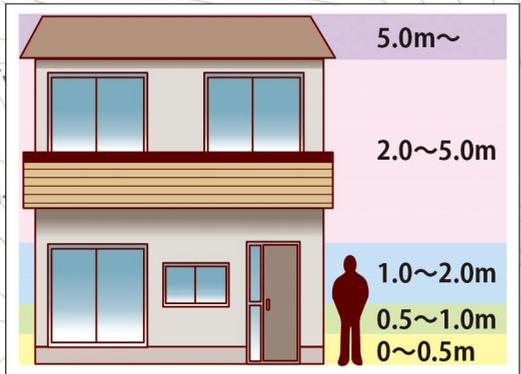
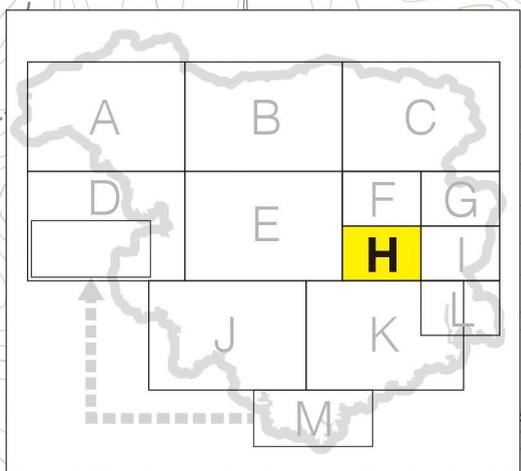
凡例	
	指定避難所
	福祉指定避難所
	津波避難ビル・タワー
	道の駅
	駐在所
	地域集会施設
	ヘリポート
	消防署
	急傾斜地 警戒区域
	急傾斜地 特別警戒区域
	土石流 警戒区域
	土石流 特別警戒区域
	地すべり 警戒区域





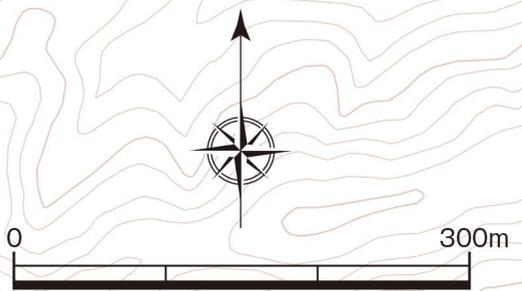
上賀茂

下賀茂



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

- 凡 例
- 指定避難所
  - 福祉指定福祉避難所
  - 津波避難ビル・タワー
  - 道の駅
  - 駐在所
  - 地域集会施設
  - ヘリポート
  - 消防署
  - 急傾斜地 警戒区域
  - 急傾斜地 特別警戒区域
  - 土石流 警戒区域
  - 土石流 特別警戒区域
  - 地すべり 警戒区域



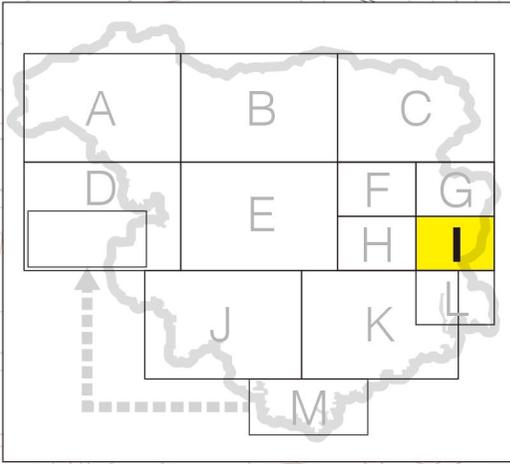
縮尺 1 : 5,000

道の駅 湯の花

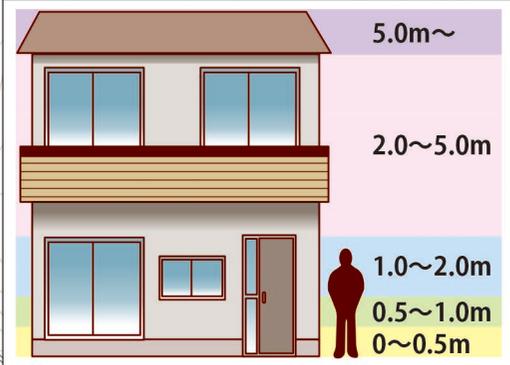
青野川

福祉  
賀茂老人ホーム

加細賀茂神社

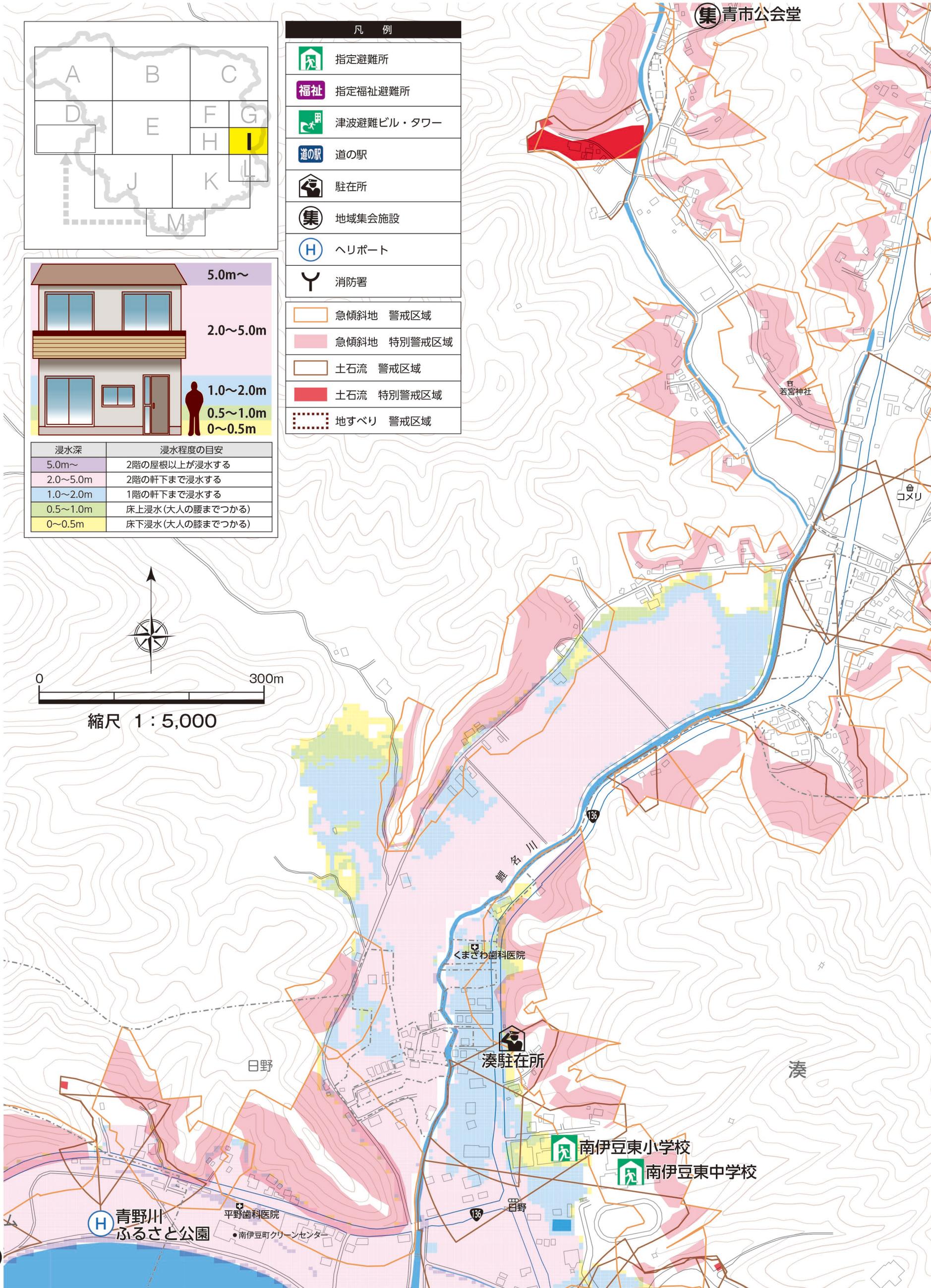
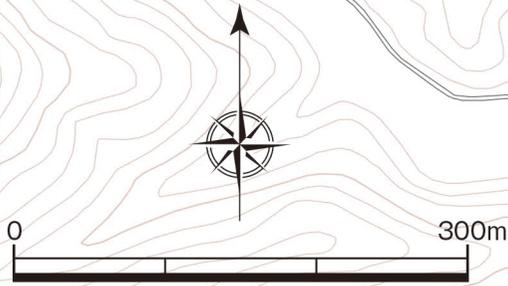


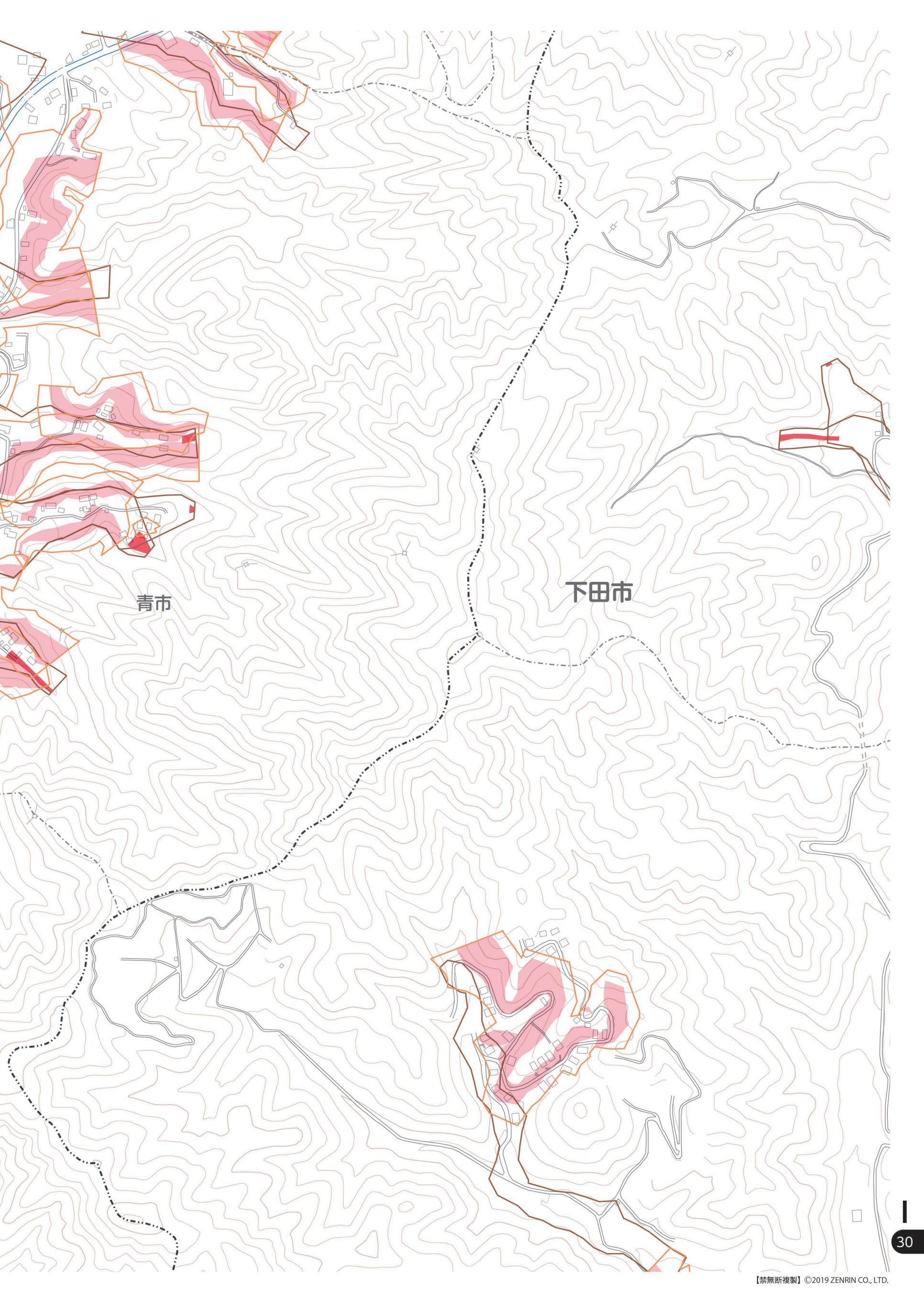
- 凡 例
- 指定避難所
  - 福祉 指定福祉避難所
  - 津波避難ビル・タワー
  - 道の駅
  - 駐在所
  - 地域集会施設
  - ヘリポート
  - 消防署



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

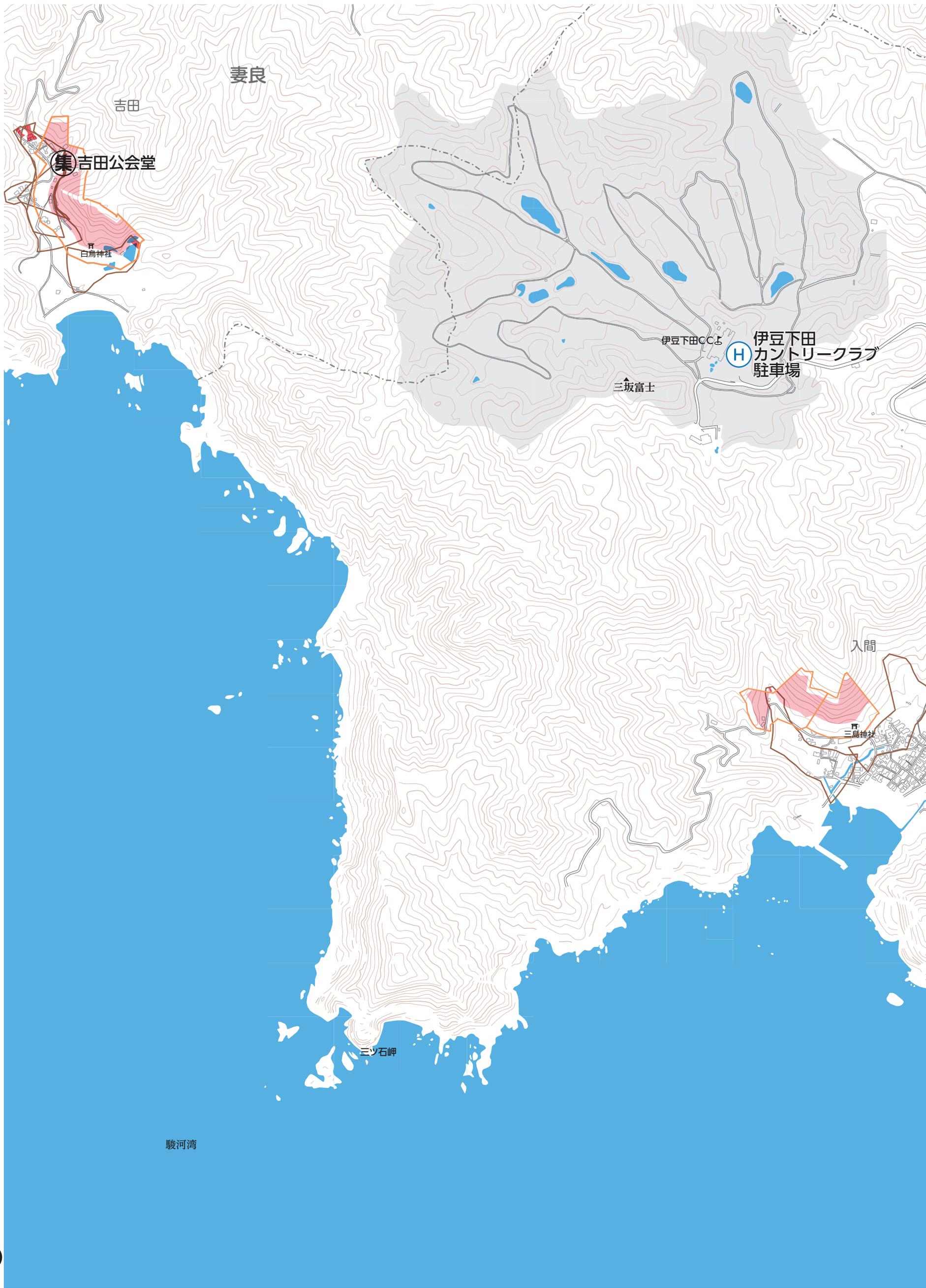
- 急傾斜地 警戒区域
- 急傾斜地 特別警戒区域
- 土石流 警戒区域
- 土石流 特別警戒区域
- 地すべり 警戒区域

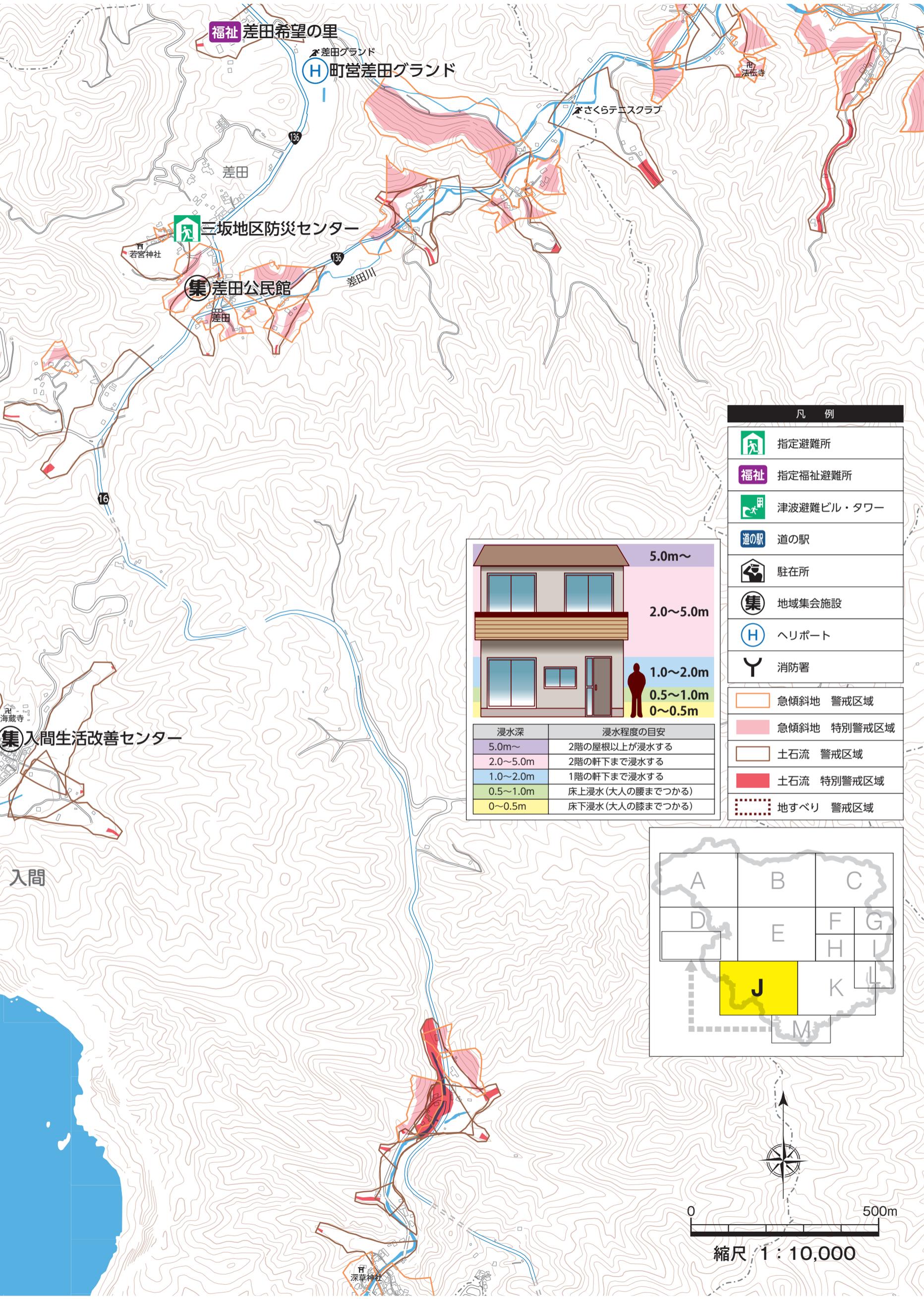




青市

下田市





福祉 差田希望の里

差田グランド  
H 町営差田グランド

差田

三坂地区防災センター

集 差田公民館

差田川

16

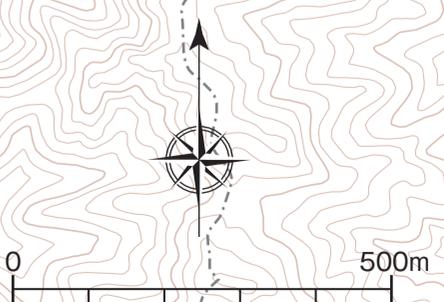
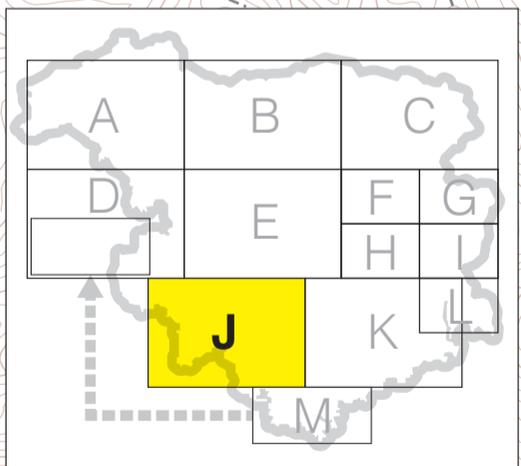
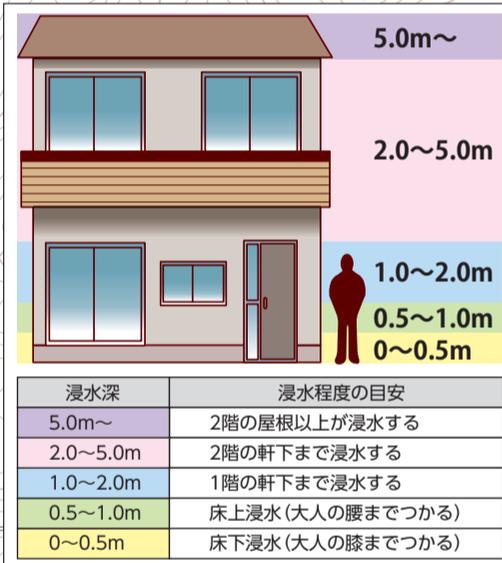
集 入間生活改善センター

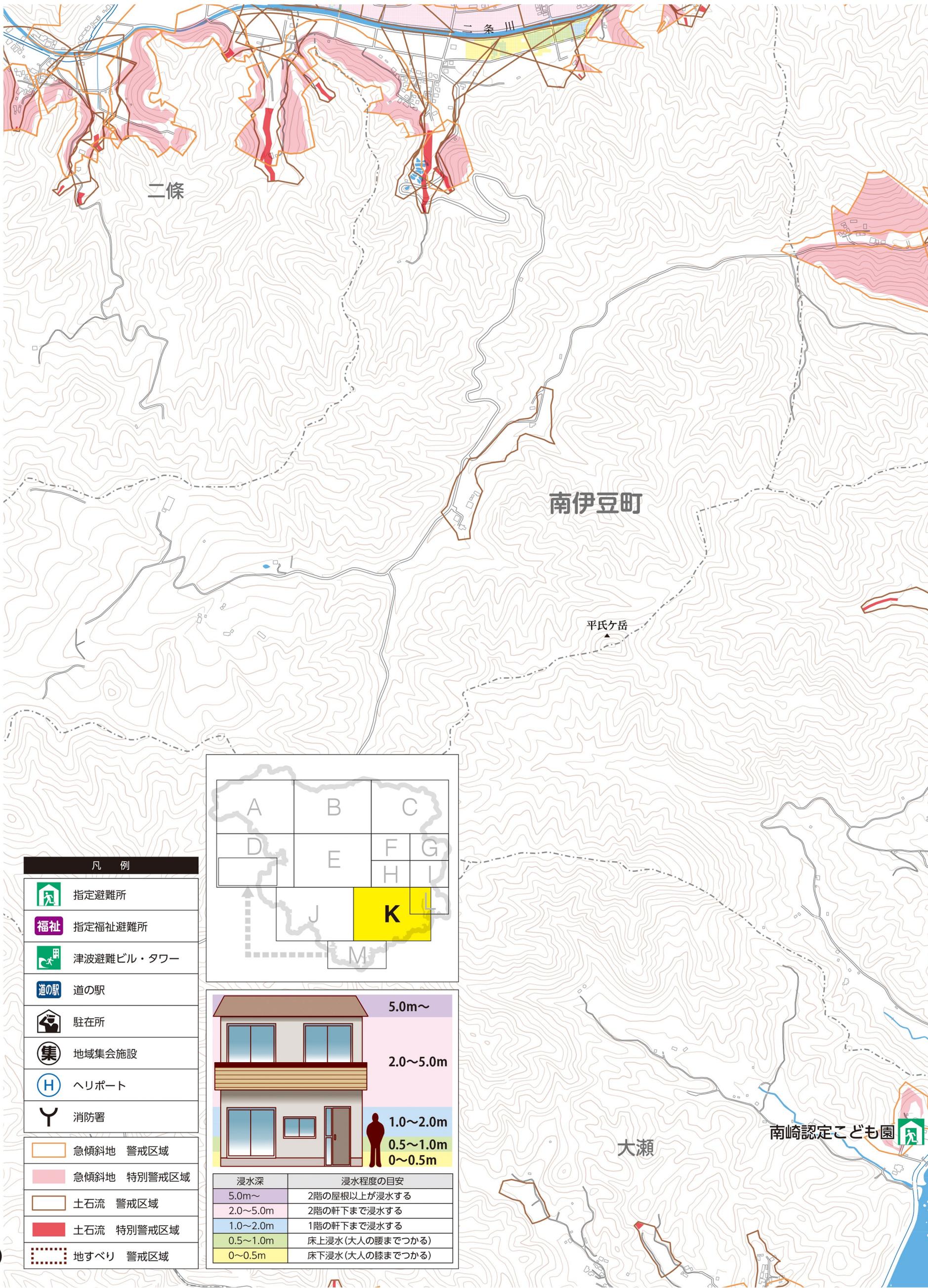
入間

深草神社

凡例

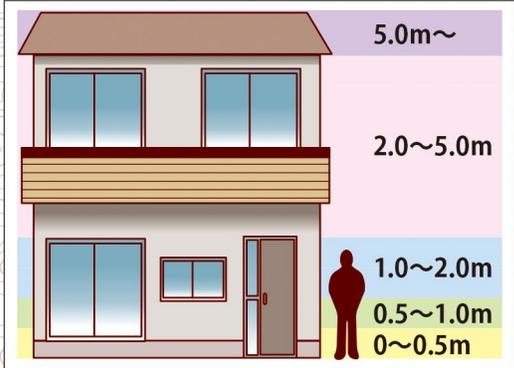
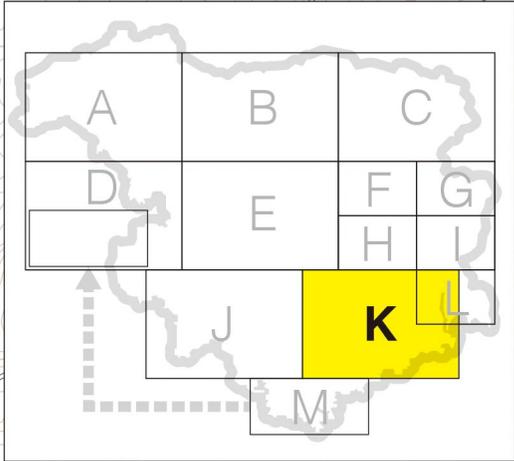
- 指定避難所
- 福祉 指定福祉避難所
- 津波避難ビル・タワー
- 道の駅
- 駐在所
- 地域集会施設
- H ヘリポート
- 消防署
- 急傾斜地 警戒区域
- 急傾斜地 特別警戒区域
- 土石流 警戒区域
- 土石流 特別警戒区域
- 地すべり 警戒区域





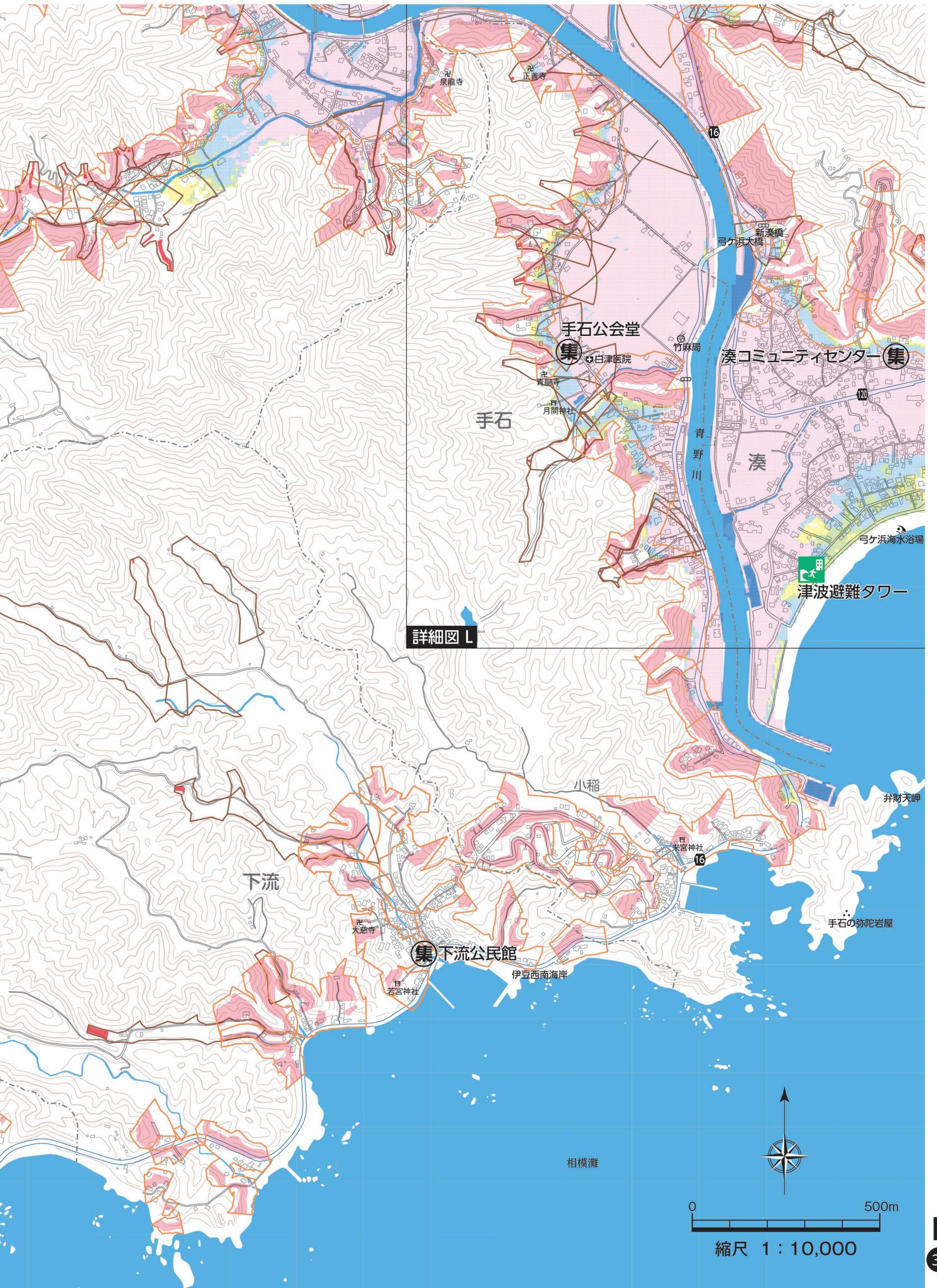
凡例

-  指定避難所
-  指定福祉避難所
-  津波避難ビル・タワー
-  道の駅
-  駐在所
-  地域集会施設
-  ヘリポート
-  消防署
-  急傾斜地 警戒区域
-  急傾斜地 特別警戒区域
-  土石流 警戒区域
-  土石流 特別警戒区域
-  地すべり 警戒区域

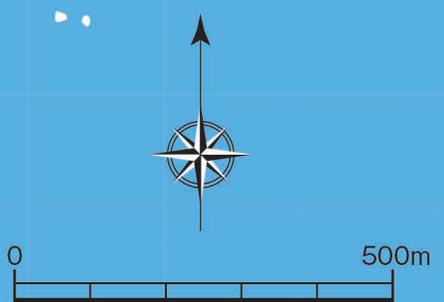


浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

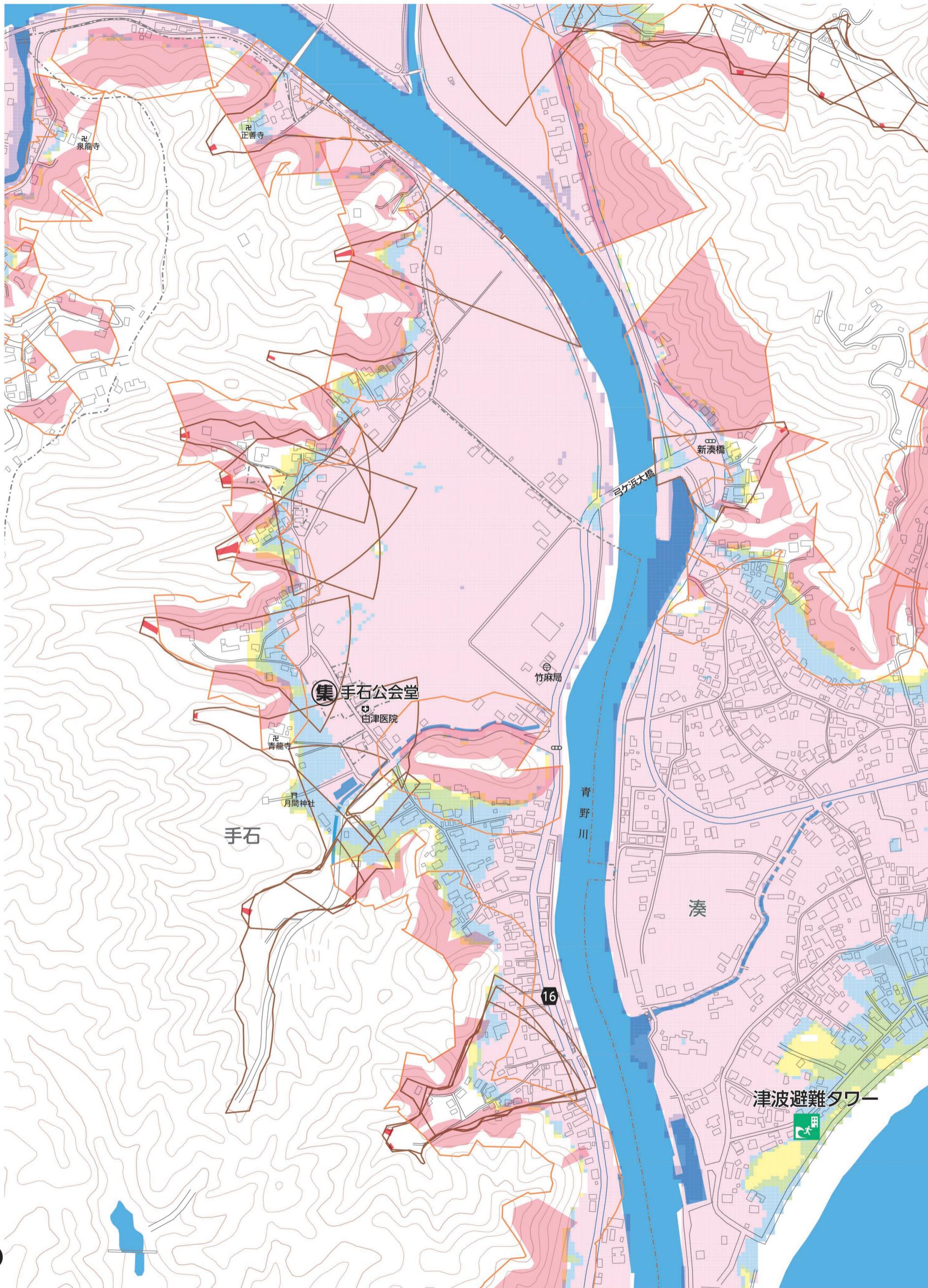
南崎認定こども園 

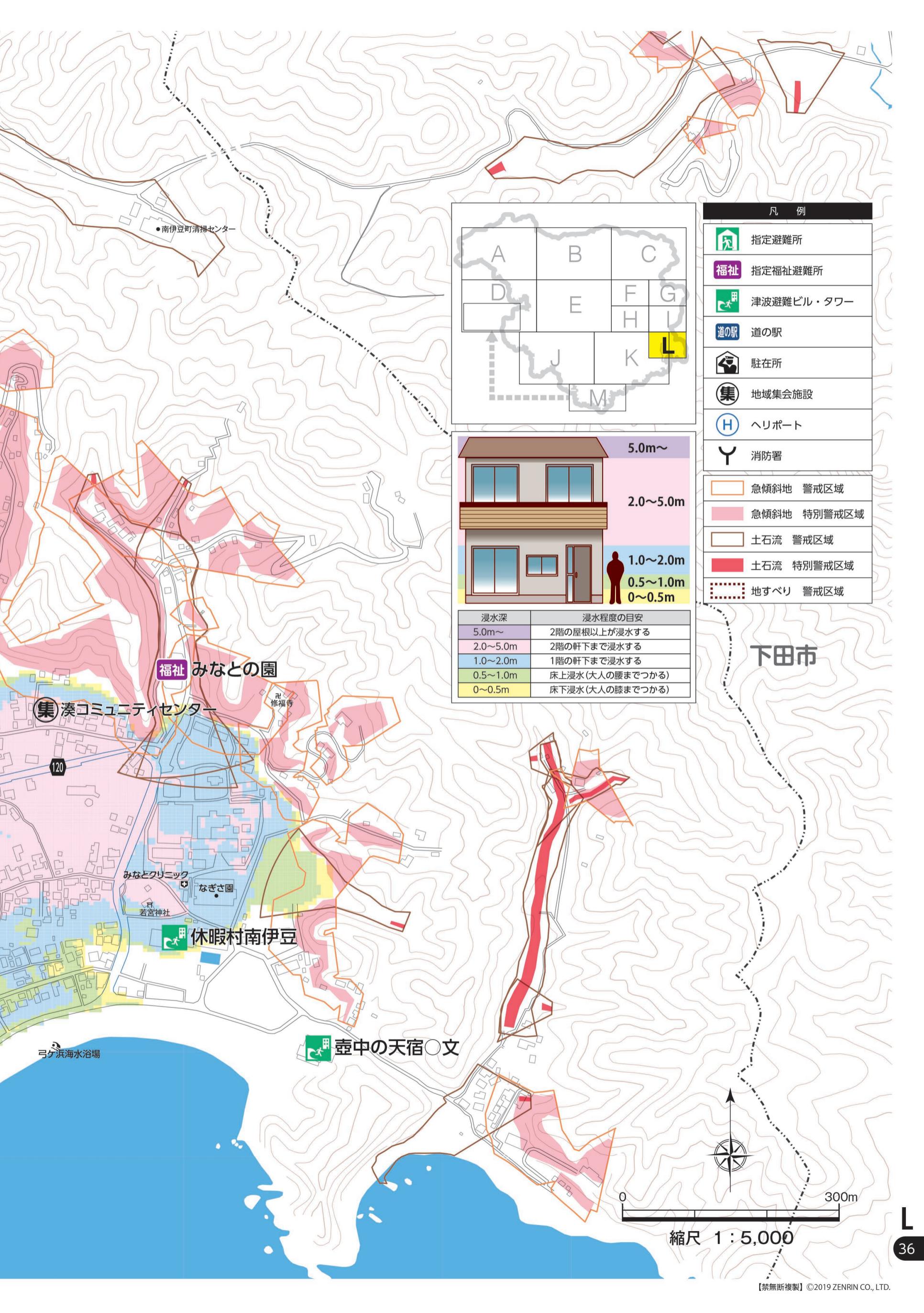


詳細図 L

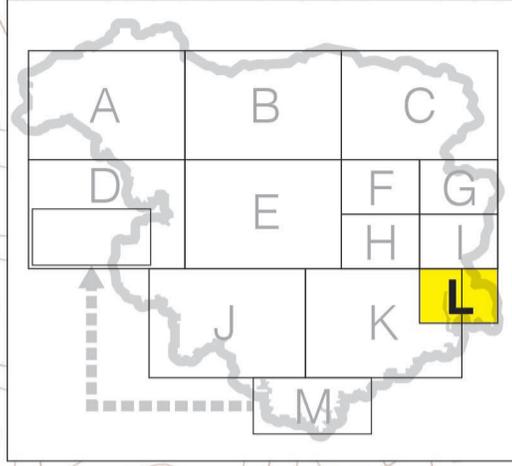


縮尺 1:10,000

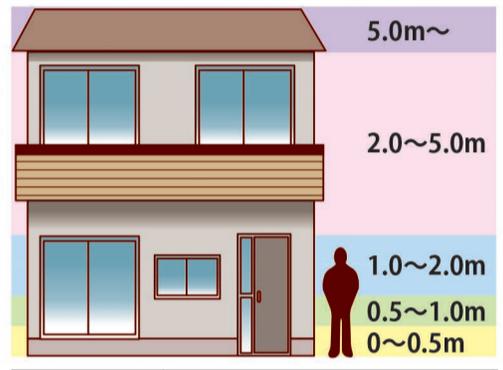




●南伊豆町清掃センター



- 凡 例
- 指定避難所
  - 福祉 指定福祉避難所
  - 津波避難ビル・タワー
  - 道の駅
  - 駐在所
  - 地域集会施設
  - ヘリポート
  - 消防署
  - 急傾斜地 警戒区域
  - 急傾斜地 特別警戒区域
  - 土石流 警戒区域
  - 土石流 特別警戒区域
  - 地すべり 警戒区域



浸水深	浸水程度の目安
5.0m~	2階の屋根以上が浸水する
2.0~5.0m	2階の軒下まで浸水する
1.0~2.0m	1階の軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水(大人の腰までつかる)
0~0.5m	床下浸水(大人の膝までつかる)

福祉 みなとの園

集 湊コミュニティセンター

みなとクリニック

なぎさ園

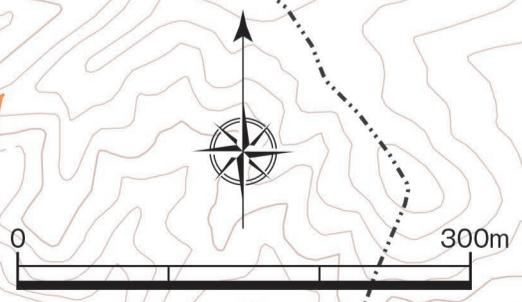
若宮神社

休暇村南伊豆

弓ヶ浜海水浴場

壺中の天宿○文

下田市



# 東京電力パワーグリッドからのお願い

## ■災害にそなえて

地震が起きたときは？



**Point**

避難するときは分電盤のブレーカーのつまみを下げてください。  
また、切れてたれ下がっている電線には絶対に触らないでください。

台風・降雪のときは？



**Point**

切れてたれ下がっている電線には、絶対に触らないでください。  
また、水に浸かった器具は使わないようにしましょう。

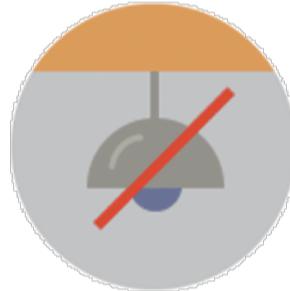
当社情報ツールおよび非常用グッズについて



**Point**

いざという時に備え、日頃から非常用グッズなどを準備しておきましょう。  
また、インターネットの情報源を知っておくと便利です。

電気がつかないときは？



**Point**

電気が消えてお困りのときは、東京電力パワーグリッドへご連絡ください。  
その際、住所や状況などの情報があると、より迅速に対応できます。

## ■停電情報のお知らせ

東京電力パワーグリッド株式会社では、お客さまに安全・確実に安定した電気をお届けできるよう、日々、設備の点検・改修を実施しております。しかしながら、災害や設備事故等により停電が発生し、長時間ご不便をおかけしてしまうこともございます。

停電情報につきましては、東京電力パワーグリッドのホームページ (<http://teideninfo.tepco.co.jp/>) または、TEPCO 公式スマートフォンアプリ「TEPCO速報」にて、停電地域や復旧時間の見込みなどをお知らせしております。



その他の注意点などは、東京電力パワーグリッドのホームページ (<http://www.tepco.co.jp/pg/>) をご覧ください。



**TEPCO**

# 避難時の心得

避難時は慌てずに、十分注意して避難しましょう。

## 正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



## 非常持ち出し品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。



## 避難の前に

避難する前に、電気・ガスなどの火元を消しましょう。また、親戚や知人に避難する旨を連絡しておきましょう。



## 動きやすい格好、2人以上での避難を

避難するときは、動きやすい格好で、2人以上での避難を心がけましょう。



## お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子供、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。



## 車での避難は避けて

車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



## 水深が50cm以上なら歩くことは危険

水深がひざまで来ると歩くことが困難になります。水深が浅くても流れに勢いがある場合にはむやみに歩き回るのは危険です。



## 浸水箇所には注意して避難を

浸水箇所があった場合には長い棒を杖代わりにして、水路や側溝などがないか確認しながら、十分に注意して避難しましょう。



## 万が一、逃げ遅れたときには

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



# 非常時持ち出し品リスト

急いで避難しなければならない場合に備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。取り出しやすい場所に置き、使用期限、消費期限も確認しましょう。

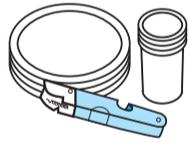
免許証、健康保険証、印鑑、預貯金通帳



救急医療品



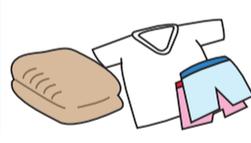
缶切り、栓抜き、紙製食器



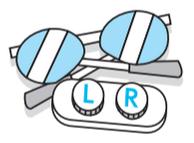
3日分の水



上着、下着などの衣類



予備のメガネ、コンタクトレンズ



3日分の食料



非常持ち出し袋



卓上コンロ、マッチ、ろうそく、ライター



懐中電灯、電池



タオル、手袋、ポリ袋、ロープ



メモ帳、筆記用具



現金、テレホンカード



ティッシュ、生理用品



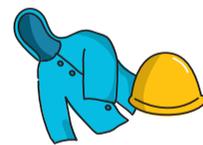
洗面用具、シャンプー



携帯電話、携帯ラジオ、戸別受信機



合羽、ヘルメット



紙おむつ、乳幼児の必要な物



## 指定避難所

	名称	住所		名称	住所
1	南崎認定こども園	大瀬7	5	南上小学校	下小野640
2	南伊豆東中学校	湊1721	6	旧三浜小学校	子浦1472
3	南伊豆東小学校	湊243	7	三坂地区防災センター	入間69-2
4	南中小学校	上賀茂80			

# わが家の「防災・緊急情報」メモ



非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。  
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関
【メモ】 ※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。					
-----					
-----					

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

## 災害用伝言ダイヤルの使い方

### 災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板(web171)」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。

伝言の録音	171-1-被災地の方の電話番号 (固定電話、携帯電話)	伝言保存期間	運用期間終了まで
伝言の再生	171-2-被災地の方の電話番号 (固定電話、携帯電話)	伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20件 (提供時にお知らせいたします)
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	固定電話、IP電話(050含む)、 携帯電話、PHS